

2021
VOL. 05



筑波大学
University of Tsukuba



筑波大學台灣校友會
UNIVERSITY OF TSUKUBA
TAIWAN ALUMNI ASSOCIATION
10672台北市大安區長興街81號
筑波大學台灣校友會秘書處
02-3366-9313



筑波大學台灣校友會會刊
UNIVERSITY OF TSUKUBA
TAIWAN ALUMNI ASSOCIATION COMMUNICATIONS

Contents 目次

会長挨拶

- 2 校友会会報の第5号発刊にあたって

筑波大学から

- 4 筑波大学学長挨拶
- 6 沿革
- 8 募金要項

校友会活動報告

- 10 オンライン説明会
- 11 台湾大学海外留学フェア
- 12 台湾人若手カフェ

校友紹介

- 14 感謝の物語—許水徳米寿の追憶
- 18 あなたとコンビにファミリーマート
—新しい時代を創るプロフェッショナル
- 30 陸羯南と台湾日日新聞
—「司馬遼太郎からの宿題」の宿題（後編）

筑波大学の今

- 40 コロナ禍の筑波大学の奮闘記

留学生だより

- 46 筑波大学に留学して
- 47 固定観念に縛られない学び方

台湾オフィス報告

- 48 筑波大学台湾オフィス便り

- 50 筑波大学校友会規約

- 52 編集後記

會長的話

- 3 會長的話

筑波訊息

- 5 校長的話
- 7 校史沿革
- 9 捐款

筑波大學活動報告

- 10 線上説明會
- 11 台灣大學海外留學展
- 13 台灣年輕人座談會

校友寄語

- 15 感恩的故事—許水徳八十八歲憶往
- 19 全家就是你家
—開創新時代的專業經理人
- 31 陸羯南與台灣日日新聞
—「來自司馬遼太郎課題」的大課題（後篇）

筑波大學現況

- 41 新冠肺炎疫情中筑波大學奮鬥記

學生寄語

- 46 筑波大學留學心聲
- 47 與眾不同的學習方式

台灣辦事處報告

- 49 筑波大學台灣辦事處
- 51 筑波大學台灣校友會章程
- 53 編輯後記

校友会会報の第5号発刊にあたって

文・筑波大学台湾校友会会長 林華章
(体育研究科 台湾体育運動大学学長)

筑波大学台湾校友会会長の林華章です。昨年の第4号に続き、今年も皆様のお手元に会報第5号をお届けできますことを大変嬉しく存じます。

2016年2月20日に立ち上げられた筑波大学台湾校友会ですが、本来は昨年2月22日に第5回総会を行うはずでした。しかし、新型コロナウイルスの影響で、残念ながら中止となりました。今年は台湾では感染拡大が抑えられているおかげで第6回の総会を開くことになりました。こうして皆さんと集えますことは感謝以外の何物でもありません。本会報からわかりますように、今年は各地の親睦会も行われず、また多くの恒例のイベントはオンラインで実施されましたが、それでも多くの交流イベントが行われました。

昨年の会報上でも述べましたが、本校友会の成立目的は校友たちの交流の場であるということに改めてお伝えしたいと思います。

(1) 筑波大学およびその前身となる学校に在籍した校友を対象としていること

筑波大学は1872年に東京高等師範学校としてその歴史が始まり、東京文科大学（1929年）、東京教育大学（1949年）を経て、1973年につくば市に本部キャンパスを移して筑波大学となりました。本校友会は、このような筑波大学の歴史を踏まえ、筑波大学およびその前身となるすべての大学・組織に所属した校友の集う会を目指し

ています。

(2) 国籍を問わず、台湾在住の方を対象としていること

本会の幹事会にも、台湾人と日本人の校友に参加いただいています。国籍を問わず校友同士が共に盛り上げていく校友会を目指しています。

(3) 校友同士の親睦及び台湾と日本との相互交流と友好発展に寄与すること

校友同士の懇親会、筑波大学と台湾の交流支援などを企画実施していきます。本会報もその一助となれればと考えています。皆様の方で活動企画などありましたら、是非幹事会へご連絡ください。校友の皆様と情報共有するとともに協力して活動していきたいと考えています。

(4) これまでの校友活動に敬意を払うこと

本学の148年に渡る歴史の中で、様々な先輩・後輩の方々が、校友間の親睦や筑波大学との交流に貢献されてきました。このような活動に敬意を払い、また校友間でこれまでの活動を共有するためにも、本会報などに取り上げて行きたいと考えています。是非とも御寄稿ください。

会則および幹事については本会会則をご覧ください。

本会をより良いものにしていくため、何かご意見がありましたら、私または幹事会へお知らせください。今年もよろしく願いいたします。



筑波大学台湾校友会 会長 2021 年吉日

會長的話

文・筑波大學台灣校友會會長 林華章
(體育研究科 臺灣體育運動大學校長)

我是筑波大學台灣校友會會長林華章。承續著去年第四期的發行，今年我也非常高興能看到這本校友會第五期的會刊，能順利出版，交到各位校友們的手上。

2016年2月20日創立的筑波大學台灣校友會，原本計畫去年的2月22日要舉行的第五次總會活動，因應新冠肺炎疫情延燒，很遺憾活動取消，今年台灣在疫情緩和的現狀下，能再度舉辦第六次的總會活動，與各位校友歡聚，心中除了感謝還是感謝。就像本會刊所載，除了校友們之間的聯誼聚餐等一概取消，許多活動也增加了以線上進行的方式，依然盡力舉辦了許多交流活動。去年的會刊上我也提到過，但再此重申本校友會的成立目的在於促進校友之間的交流，故以下幾點要在此特別跟大家說明：

(1) 本校友會の入會資格，以筑波大學及前身大學校友為對象

筑波大學始於1872年創校之東京高等師範學校，經歷了東京文科大学（1929年）、東京教育大學（1949年）的時代，於1973年把校本部移到筑波市，以此地為名而成立了筑波大學。故本校友會以此歷史的軌跡為本，以集合筑波大學及前身之所有大學之校友為目的而設立。

(2) 不分國籍，以居住在台灣的校友為對象

以本校友會的幹事會為例，台灣的校友和日本的校友皆擔任幹部，不分國籍，一同為台灣校友會的活動盡心盡力，以融合不同國籍的校友為目的而設立。



林華章

(3) 以增進校友間的感情，加強台灣與日本間相互的交流與發展為目的

將策劃校友間的聯誼活動，並支援筑波大學與台灣之間的交流，本次發行之會刊，即為此目的而策劃，希望能對促進聯誼有所助益。諸位校友若有其他活動企劃的想法，也煩請跟幹事會聯絡。願校友們都能在共有共享的基礎上，互助合作，為本校友會的活動增添色彩。

(4) 向歷來的校友會活動致敬

在母校148年悠久的歷史中，有些校友先進為校友活動貢獻良多，在此向歷來的校友會活動參與人員，致上最高的敬意與最深的感謝。為了與所有校友們分享校友會在此一年間的交流活動，我們每年將其編輯成冊，在此歡迎各位校友不吝惠賜稿件，在會刊的取材與內容方面，也歡迎隨時提供我們寶貴的意見。

另外，也將台灣校友會的章程附載於本會刊中，還請各位會員務必過目。

各位會員的賜教都將促進本會的成長，有任何意見都請直接與我或幹事會聯絡，再次謝謝各位。



筑波大學台灣校友會 會長 2021 年吉日

筑波大学は、1872年に明治政府によって我が国で最初の高等教育機関として創立された師範学校を創基として、東京教育大学に至る歴史を経て、1973年に「新構想大学」として誕生し、2023年に創基151年、開学50周年を迎えます。

本学は、あらゆる面で「開かれた大学」という建学の理念のもと、従来の観念に捉われない「柔軟な教育研究組織」と次代の求める「新しい大学の仕組み」を率先して実現するために、「不断の改革」を進めてきました。本学の前身である東京高等師範学校の校長であった嘉納治五郎氏は近代柔道の父として名を知られていますが、それ以上に重要なことは理想に溢れた優れた教育者であり、日本の高等教育を国際社会に開いた先駆者であったということです。また本学は総合大学としては他に例を見ない幅広い学問分野を有しており、専門分野を深化させながら、新たな学際融合・横断的な教育研究を積極的に開拓してきました。

現在、私たちを取り巻く環境は、激変するグローバル社会の中で、混乱の度合いを増しています。グローバル社会の中では、国際紛争・テロリズム、感染症あるいは経済・金融問題などを例に取るまでもなく、問題は国境を超えて瞬く間に広がっていきます。エネルギーや環境の問題、産業と経済の活性化の問題など、解決すべき課題は地球規模で共有しなければならない問題であり、解決に向けては従来型の発想を越えたイノベーションが必要です。

これらを解決するために、本学には教育、研究、およびそれらを基盤とした社会貢献が求められています。研究学園都市で新構想大学として出発した本学は、先端的な研究教育拠点、知の国際連携活動拠点、そして我が国の産官学協働の拠点として育ってまいりました。今後は、本学は持てる力を結集して、地域と地域社会、国と国民、世界と人類の公益に資する開かれた大学として努力を続けてまいります。そのためには、共に進む卒業生や関連する企業などの皆様からのご指導、ご鞭撻が必要です。

こうした思いの実現に向けて、「世界トップレベルの研究支援」、「国際交流とグローバル人材の育成支援」に関する支援のための「創基151年筑波大学50周年記念基金」を創設いたしました。つきましては、全てのステークホルダーの皆様に記念基金の趣旨をご理解いただき、記念基金へのご支援、ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

国立大学法人筑波大学長

永田恭介

ごあいさつ

筑波大学は1872年明治政府時期我が国最初的高等教育機関一師範学校を創基として、東京教育大学の段階で、1973年に「新構想大学」を創設した。2023年創設151年、本校は創設50周年を迎える。

本校は「開放性大学」を基礎建校理念として、率先して既成の教育観念の拘束を脱し、「弾力性調整的教育研究組織」を構築し、また次世代に求められている「革新的な大学体制」を、この理念「不断の改革」を通じて実現する。これまで本校の前身である東京高等師範学校校長の嘉納治五郎校長は、近代柔道の父として知られるだけでなく、日本の高等教育を国際社会に開いた先駆者であり、また学問分野を横断的に融合し、専門分野を深化させながら、新たな学際融合・横断的な教育研究を積極的に開拓してきました。

現在、私たちを取り巻く環境は、激変するグローバル社会の中で、混乱の度合いを増しています。グローバル社会の中では、国際紛争・テロリズム、感染症あるいは経済・金融問題などを例に取るまでもなく、問題は国境を超えて瞬く間に広がっていきます。エネルギーや環境の問題、産業と経済の活性化の問題など、解決すべき課題は地球規模で共有しなければならない問題であり、解決に向けては従来型の発想を越えたイノベーションが必要です。

これらを解決するために、本学には教育、研究、およびそれらを基盤とした社会貢献が求められています。研究学園都市で新構想大学として出発した本学は、先端的な研究教育拠点、知の国際連携活動拠点、そして我が国の産官学協働の拠点として育ってまいりました。今後は、本学は持てる力を結集して、地域と地域社会、国と国民、世界と人類の公益に資する開かれた大学として努力を続けてまいります。そのためには、共に進む卒業生や関連する企業などの皆様からのご指導、ご鞭撻が必要です。

こうした思いの実現に向けて、「世界トップレベルの研究支援」、「国際交流とグローバル人材の育成支援」に関する支援のための「創基151年筑波大学50周年記念基金」を創設いたしました。つきましては、全てのステークホルダーの皆様に記念基金の趣旨をご理解いただき、記念基金へのご支援、ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。



沿革

1872

- 5月29日、東京に師範学校設立。

1886

- 東京師範学校は高等師範学校と改称。



1893

- 嘉納治五郎、校長に就任。



1920

- 東京箱根間往復駅伝競走大会優勝
金栗四三が設立した、東京箱根間往復駅伝徒歩競争大会(現在の箱根駅伝)第1回で東京高等師範学校が初優勝を飾った。

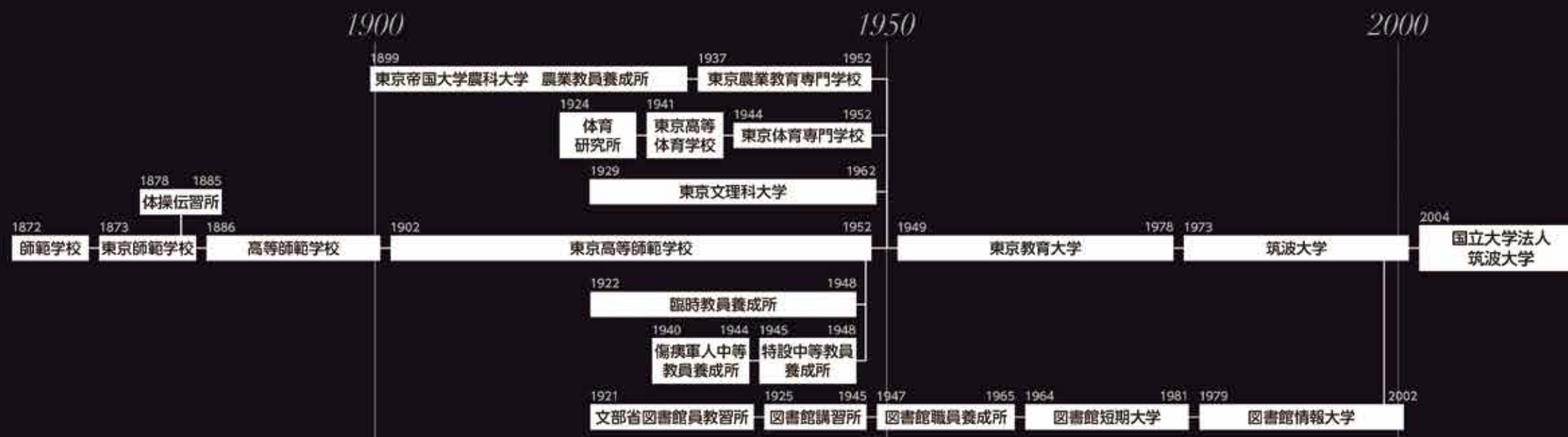


1929

- 東京文理科大学設置。



筑波大学の起源は1872年、日本初の教員養成機関として発足した「師範学校」にさかのぼります。それから101年、東京教育大学の移転を契機に、よき伝統と特色を生かしながらも、わが国ではじめて抜本的な大学改革を行い、1973(昭和48)年に「開かれた大学」を建学の理念に総合大学として発足しました。開学から40有余年、筑波大学は初心を忘れず、しかもつねに時代を先駆ける大学を目指して不断の改革を続けています。



1949

- 国立大学設置法(昭和24年法律第150号)により東京教育大学設置。



1956

- 朝永振一郎、学長に就任。
東京教育大学第2代学長。1965年、ノーベル物理学賞受賞。くりこみ理論の発明により、量子電気力学の発展に寄与。1969年、東京教育大学名誉教授に就任。



1973

- 国立学校設置法等の一部を改正する法律(昭和48年法律第103号)により筑波大学を設置。



1992

- 江崎玲於奈、学長に就任。
筑波大学第5代学長。1973年、ノーベル物理学賞受賞。現代のエレクトロニクスの基礎を担う半導体物理学分野の発展に寄与。1998年、筑波大学名誉教授に就任。



2004

- 国立大学法人法(平成15年法律第112号)により国立大学法人筑波大学を設置。

1. 名称 ——— 「創基151年筑波大学50周年記念基金」

2. 目標金額 ——— 10億円

3. 募集期間 ——— 2024年3月31日まで

4. 支援内容 ——— ●研究支援・人材育成支援[世界トップレベルの研究支援]
幅広い学問分野において、真理を深く探求する研究と、研究成果の社会還元を目指す研究の両面において、世界トップレベルの最先端研究を展開する。
また、最先端研究とともに基礎研究を着実に実施する。



●国際交流とグローバル人材の育成支援
日本人学生の海外留学支援、優秀な留学生に対する経済支援、学術研究水準の向上とグローバル人材の育成を支援する。

5. ご寄附の方法 — (1)お振り込みによるご寄附[銀行・郵便局]
所定の振込用紙に必要事項をご記入の上、お近くの金融機関の窓口にお出ください。
(2)オンライン決済によるご寄附
[クレジットカード決済、インターネットバンキング決済(ペイジー)、コンビニ決済]
「筑波大学基金ウェブサイト」よりお申し込みください。
<https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/>



6. 顕彰・特典 ——— ●寄附者銘板 ● 個人で10万円以上、法人で50万円以上のご寄附(累計額)を賜りました方につきましては、大学会館エントランスホールにごございます「筑波大学基金寄附者銘板」にご芳名を刻み、末永く顕彰させていただきます。(ご希望の方のみ)
●感謝状の贈呈 ● 個人で10万円以上、法人で50万円以上のご寄附(累計額)を賜りました方につきましては、感謝状を贈呈させていただきます。
●記念品贈呈 ● 募集期間中、各年度内個人で3万円以上、法人で10万円以上のご寄附を賜りました方につきましては、御礼として、本学関連商品等を贈呈させていただきます。



寄附者銘板

1、名稱 「創基151年筑波大學50週年紀念基金」

2、目標金額 10億日幣

3、募集期間 2024年3月31日為止

4、支援内容 ●研究補助與人才培育「世界頂尖研究支援」
在廣泛的學術分野中，開展世界頂尖最先進的研究，一方面探求深入真理，另一方面也能將研究成果回饋社會，在最先進的研究與基礎的研究兩方面都能夠確實的推進。



●「國際交流與跨國人材的培育支援」
支援日本學生到國外留學、優秀的留學生到日本的經濟支援、提升學術研究水準與國際人材培育之支援。

5、捐款方式 (1) 匯款{銀行或郵局}
在匯款用單上填入必要事項後，就近到金融機關匯款。
(2) 線上付款
{信用卡付款、線上電子付費Pay-easy、便利商店付款}
到{筑波大學基金官網}上申請：
<http://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/>



6、表彰 ●捐款者芳名 ● 個人捐款10萬日幣以上或法人捐款50萬日幣以上(累計)，將在筑波大學大學會館的穿堂「筑波大學基金捐款者芳名錄」上刻上芳名以茲感謝。(有此意願者)
●感謝狀 ● 個人捐款10萬日幣以上或法人捐款50萬日幣以上(累計)，將贈贈感謝狀。
●紀念品 ● 募款期間，各年度個人捐款在3萬日幣以上或法人捐款10萬日幣以上，本校將贈與紀念品以茲感謝。

オンライン説明会

今年は新型コロナウイルスの影響により、筑波大学の入学・留学説明会は2020年10月24日に初めてオンラインで行われました。

説明会当日は、台湾オフィスの責任者の阿部先生のご挨拶に続き、台湾オフィスの林秘書から英語プログラムと留学生のための日本語プログラムについての紹介及び手続きの方法や最新情報等の説明がありました。説明会には筑波大学に在学中の2名の台湾の留学生も参加し、入学申請の方法や大学生活について話してくださいました。質問タイムでは、入学を希望する学生さんや保護者の方々から熱心な質問をいただきました。皆さんが



順調に留学生活を送られることを願っています。

最後に、筑波大学国際オフィスのスタッフの皆様のおかげで今回の初めてのオンライン説明会が無事に開催できましたことに、心より感謝申し上げます。次の説明会でお目にかかれることを楽しみにしています。



線上説明會

今年因為新冠肺炎的疫情影響，2020年10月24日筑波大學首次以台灣的高中生為對象，舉辦了大學入學及留學線上說明會。

說明會當天邀請到台灣辦公室的負責人阿部老師開場致詞，台灣辦公室的林秘書詳細地介紹了英語學程及以為留學生特設的日語學程，讓同學們可以理解相關的手續及最新資訊等。這次說明會上也特別感謝2位在校的台灣留學生和大家分享入學申請和大學



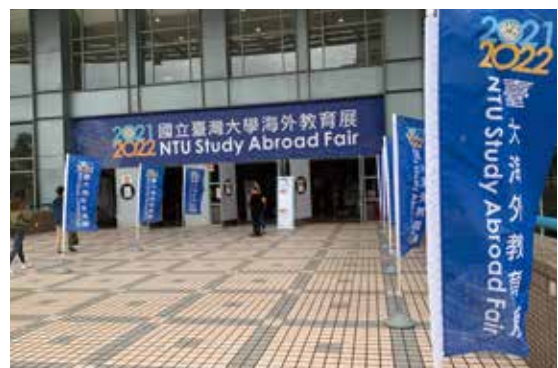
生活的經驗。說明會尾聲是問與答的時間，感謝同學們及家長的熱烈提問。先預祝各位同學們入學及留學生活順利！

最後本次說明會雖然是首次採取線上的方式舉行，但能夠圓滿成功，都歸功於筑波大學國際處同仁們的支援，感謝大家。期待我們下個說明會再見。



台湾大学海外留学フェア報告

2020年12月8日の海外教育フェアは国立台湾大学の体育館内で行われました。今回はおそらくコロナの影響で、例年より来場者は少ないように感じました。今年は筑波大学の教職員の皆さんの応援もいただけませんでしたので、ブースを訪れる人が後を絶たない中、休む間もなく訪れる学生さんの対応をしました。台湾大学国際オフィスが長年にわたりこのフェアを開催してくださいますおかげで、台湾大学の学生さんたちにも筑波大学のことをより知っていただける機会になっています。そして、毎年学生さんたちからは、台湾大学からの交換留学先とし



て、筑波大学はとても人気の大学になっているので、希望通りに筑波に行けるか不安だという声も毎年耳にしています。是非、皆さんに筑波大学で充実した留学生活を送っていただきたいと思います。



國立臺灣大學海外教育展

2020年12月8日是國立臺灣大學舉辦的海外教育展。雖然天公不作美，是個陰天小雨的天氣，還好今年是在台大體育館內舉行，不至於造成太大的影響。可能因為疫情嚴峻，來場的學生人數還是比往年少了一些。因為筑波大學日本的教職員們無法如同往年那樣來台支援，所以人手略顯不足，面對絡繹不絕蒞臨攤位的同學，還是應接不暇，十分忙碌。感謝多年來台大國際處舉辦的這項活動，讓台大同學對本校更熟悉，也非常榮幸每次都聽到來訪的同學抱怨：筑波大學已經成為台大申請交換留學的熱門大學，他們都擔心會申請不上。誠心歡



迎同學到筑波大學來，體驗難以忘懷的留學生活。



第4回台湾人若手カフェ ～リサーチとキャリアパス～

第4回目の台湾人若手カフェを2020年12月5日（土）に新型コロナウイルス拡大防止対策を講じて、オンラインと対面式で同時開催しました。この会を後援する台北駐日経済文化代表処からのご提案により筑波

大学の台湾人留学生に限らず、他の大学に声をかけ、その結果、茨城大学、東京通信大学の台湾留学生が参加してくれました。午後に発表した余さんからこの会の開催の重要性について寄稿していただきました。



第四屆的台灣年輕人座談會在2020年12月5日(星期六)舉行，配合新冠肺炎防疫對策，採取面對面和線上二種方式同時進行。這個活動在協辦的台北駐日經濟文化代表處的建議下，不僅邀請了筑波大

學的台灣留學生參加，也有茨城大學、東京通信大學的台灣留學生來參加。以下是當天下午的求職就業分享的部分中，參與發表的余書農先生，針對本次座談會舉辦的重要性的投稿，請見右頁。



第四屆台灣年輕人座談會 ～喝咖啡聊研究與求職就業分享會～



今回の若手カフェを通じて多くの筑波大関係者の前で自分の就活、職場体験、人生経験をお話し出来て、非常に光栄に思います。今年は新型コロナウイルスが全世界に及ぼした影響で自分も初めての経験であるリモートスピーチという形で話させてもらいました。

今回の若手カフェを通じ、改めて多くの筑波大OB、OGが各分野で活躍されている

事を知り、筑波人として身が引き締まる思いです。なお、会中で偶然にも同期で入学した友人と久々に再会し、同窓会みたいな感じの一面もありました。今回の会合を通じて、違う世代の方々(特に若い世代)と交流する機会を持てて良かったです。これからもこういった会には多く携わっていきたいと思います。

很榮幸透過台灣年輕人座談會，有機會在眾多筑波人前分享了自己的求職、就職、與人生的經歷。今年因COVID-19全球大受影響的關係，讓自己初次透過視訊演講的方式與大家聚在一起。也因有這一場活動，得知到許多OB、OG在各領域的活躍與近況，讓自己再次感受到身為筑波人

的榮耀。會中也偶然與同期的留學生朋友相遇相互寒暄，除了經驗分享以外也多了一種像同學會的溫馨感受。也透過這次會談，與不同世代（尤其是年輕世代）多了一些互動的機會，希望未來有機會還能繼續參與會談。（文：余書農 體育專門学群盛樂地野球訓練中心 總負責人）



感謝の物語——許水徳米寿の追憶

2017年5月、私たちは初めて許水徳さんを訪ね、筑波大学台湾校友会の名誉会長にご就任くださるようお願いしました。大変光栄なことにそのお役をお引き受けいただき、この東京教育大学時代の大先輩は、台湾校友会にとって心強い存在となってくさっています。

同年11月、永田恭介学長の来台の際にはおもてなしの席を設けてくださった許名誉会長は、お茶の替わりにいただく高粱酒を酌み交わしながら、台湾校友会を代表して母校への感謝を語り、楽しい時間を過ごし

ました。

台湾オフィス前所長の大庭先生は、在任中に、許名誉会長のお取り次ぎのおかげで李登輝元総統にお目にかかることができました。これは、大庭先生にとって台湾駐在期間の最も貴重な思い出の一つです。昨年李元総統が逝去された際には、永田学長もお悔やみのお手紙をお送りしました。

許名誉会長が2019年に「感謝の物語——許水徳米寿の追憶」という本を出版された時には、李元総統は直々に推薦文を書かれました。許名誉会長は、この本の中で、「私



感恩的故事——許水徳八十八歳憶往

2017年5月我們第一次拜訪許水徳先生，邀請他擔任筑波大學台灣校友的名譽會長，非常榮幸得到首肯，而台灣校友會得以一直受到這位東京教育大學時期的大學長的指導與關照。

同年11月，永田恭介校長來台，許名譽會長設宴款待，席間與永田校長以高粱酒代茶，海量豪情，賓主盡歡。許名譽會長代表了全體台灣校友會，表達了對母校的感念之情。

前台灣辦事處處長大庭良介教授，並

在許名譽會長的牽成下，親訪李登輝前總統，這是大庭教授訪駐台期間，最珍貴的回憶之一。去年李前總統仙逝，永田校長也特別致信慰問。

許名譽會長於2019年出版了「感恩的故事——許水徳八十八歳憶往」一書，當時李前總統還親自撰寫了推薦序。許名譽會長在書中提到：「但願這些屬於我的故事，能讓一般年輕人有所啟發，從中體悟感恩的快樂，努力上進、樂觀進取，獲得信心與毅力，這是我最大的期許。」在此





の辿ってきた道が、若い人たちにとって感謝する喜びを体感し、上を目指して楽観的な姿勢で前進し、自信と強い意志を獲得する啓発になったらというのが、私の最大の願いです。」と書かれています、台湾校友会の皆さんの励みにもなるかと思っています。

「日台の友好関係の強化と相互理解の促進に卓越した貢献」が認められ、許名誉会長が日本の天皇から贈られる最高栄誉の旭日大綬章を受章された最初の台湾人となられたことも、筑波大学の誇りであり台湾校友会の栄誉でもあります。

時が過ぎ、再度中山学術文教基金会に許名誉会長をお訪ねした時には、卒寿が近いで高齢ながらもその澁刺としたお姿に敬服しました。その日、私は筑波大学台湾校友会会報第4号をお届けしましたが、許名誉会長はご自身の直筆サイン入りのご高著をご寄贈くださいました。先の見えない不安が続く2020年において、これは大変ありがたく、まさに本のタイトル「感謝の物語」そのものでした。

(訳：服部美貴 日本語・日本文化学類卒／地域研究研究科日本語コース修了、台湾大学日本語文学系講師)

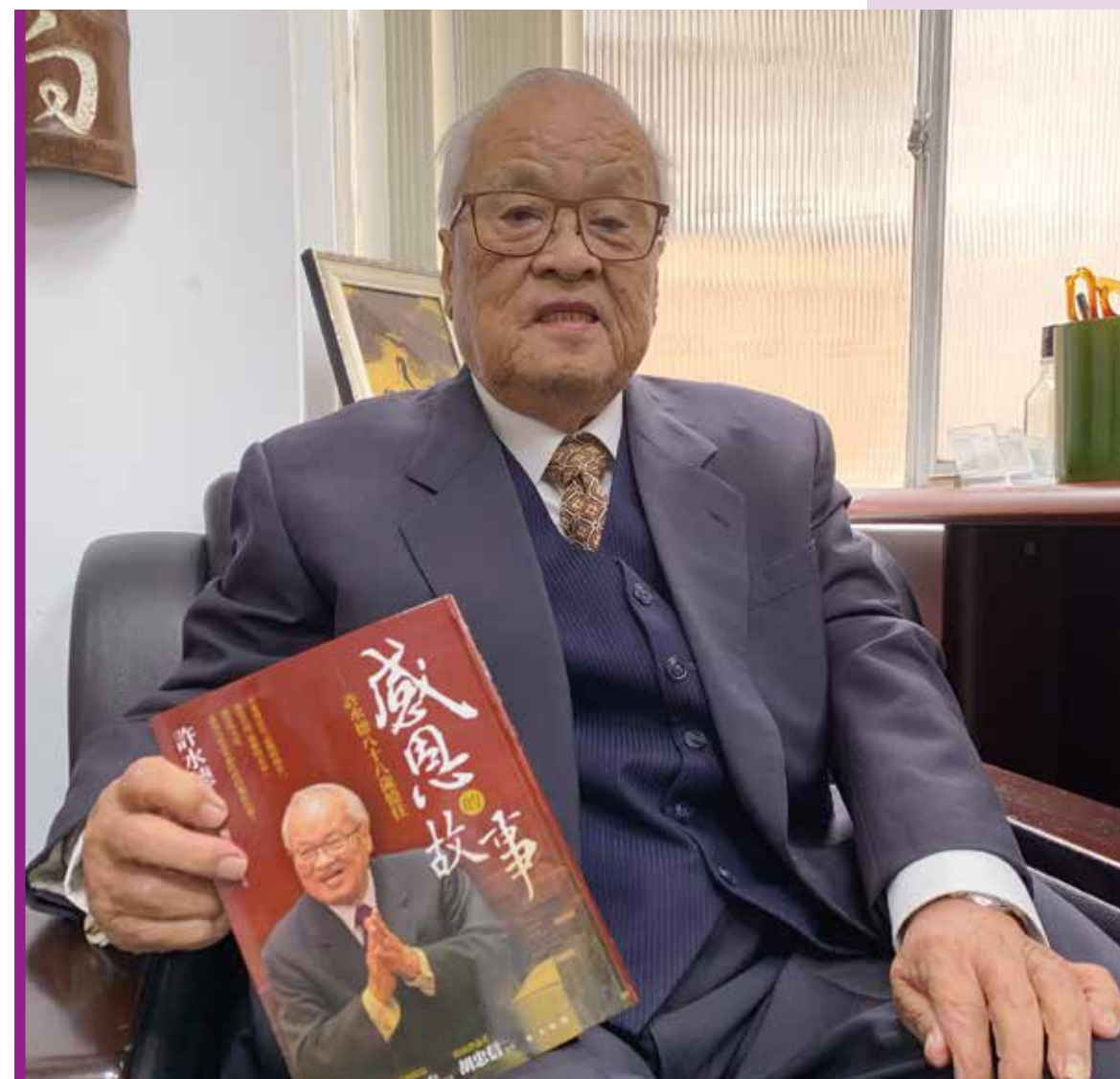
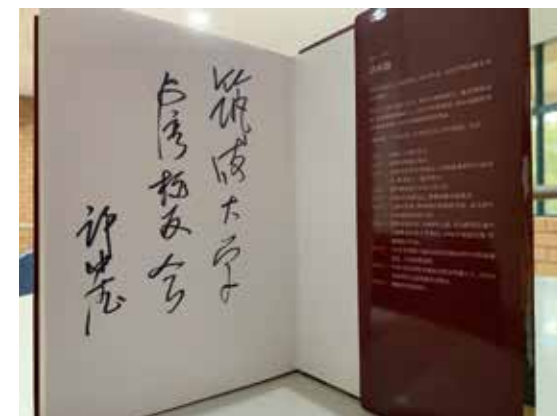
與台灣校友會的全體校友共勉之。

許名譽會長是台灣第一人，接受日本天皇頒發的最高榮譽旭日大綬章，以表彰其「強化日台友好關係，促進相互理解的卓越貢獻。」他是筑波大學的驕傲，台灣校友會與有榮焉。

時光荏苒，我再次到中山學術文教基金會拜訪許名譽會長，見到近九旬高齡的許名譽會長容光煥發，心中十分感佩。當天我代替校友會，雙手奉上了第四期的筑波大學台灣校友會會刊，而許名譽會長則致贈了我們他親筆簽名的書，在經歷過動

盪不安的2020年，這一切都是這麼的值得感謝，誠如書名「感恩的故事」。

(文：林佳瑤 筑波大學台灣辦事處)



あなたとコンビニに ファミリーマート ——新しい時代を創る プロフェッショナル

人物紹介

潘進丁

全家便利商店集團（台灣のファミリーマート）会長

- 1951年 台湾南部の屏東生まれ
- 1985年 筑波大学経営・政策科学研究科修了
台湾に戻った後、「国産汽車」社に入り、総合企画部で新規事業評価を担当
- 1988年 台湾におけるファミリーマート運営会社の発足に当たり、：副総経理に主任。その後、総経理、董事長兼CEOなどを歴任
- 2015年 全家グループの会長に就任、現在に至るまで人材育成にも取り組む。
日本のファミリーマートの常務執行役員、台湾チェーンストア協会の会長なども務め、流通業界で30年以上の実務経験がある。

潘進丁

全家便利商店集團會長

- 1951年 出生於屏東。
- 1985年 自筑波大學經營政策研究所畢業，回國後隨即進入國產汽車擔任綜合企劃部專員，負責評估新事業。
- 1988年 成立台灣全家便利商店股份有限公司，前後擔任副總經理、總經理、董事長兼執行長。
- 2015年 交棒，轉任全家集團會長至今，致力於國內流通人才的教育推廣。
曾受邀擔任日本FamilyMart常務執行役員，台灣連鎖暨加盟協會理事長，擁有超過30年流通產業的工作經驗。

全家就是你家 ——開創新時代的 專業經理人

人物紹介

張建中

全台物流股份有限公司（Taiwan Distribution Center）、元会長

- 1955年 台北生まれ。
- 1988年 筑波大学経営・政策科学研究科修了
台湾に戻り、三井物産に入社。
- 1989年 潘進丁氏の台湾ファミリーマート設立後。
同社の投資により、現在は国内物流企業のトップでもある全台物流股份有限公司を設立。
- 2012年 会長に就任。
- 2020年 会長退任、顧問に就任。

張建中

全台物流股份有限公司總經理退休

- 1955年 出生於台北。
- 1985年 自筑波大學經營政策研究所畢業，回國後進入三井物産商社。
- 1989年 在潘進丁先生1988年成立台灣便利商店之後，成立全台物流股份有限公司，為全家便利商店股份有限公司轉投資設立之關係企業，也是國內物流服務的頂尖業者。
- 2012年 擔任全台物流的董事長。
- 2020年 退休，現為全台物流顧問。

筑波大學台灣校友會
UNIVERSITY OF TSUKUBA
TAIWAN ALUMNI ASSOCIATION

はじめに インタビュー担当者から

筑波大学台湾オフィスの所長だった筑波大学准教授の大庭良介先生と私は、2017年以来、筑波大の教授や大学院生を引率してファミリーマート本部を何度も訪れてきました。優秀な大先輩である潘進丁会長に面会し、大学と同社との産学連携の可能性について話し合い、社内の方々との交流を通じて、私たちの実務的な視野は広がり、多くの産学連携を進めました。

潘氏は、2016年2月に成立した筑波大学台湾校友会の副会長も務め、同窓会に多大な貢献をしてきました。張建中氏は、筑波大学台湾校友会の林華章会長と在学中から気心知れた友人でもあり、毎年、校友会の活動に出席を欠かさなばかりか、総会後の懇親会のために赤ワインと白ワインを提供して下さっています。もちろん、ファミリーマートで最も評価の高いワインを取り寄せており、校友たちがグラスを手に語り、とても楽しいときを過ごす得難い集まりになっています。張氏の校友会への支援に、心から感謝申し上げます。

台湾校友会の幹事会議で、今回の会報に経済界で活躍する2人のインタビューを掲載する案が出されると、全会一致の賛同を得ることができました。しかし、林華章会長をはじめとする幹事が心配したのは、とてもお忙しいトップ経営者のお2人が、私たちのインタビューのために時間を割いていただけるだろうかという点でした。しかし、お2人の強い母校愛のおかげで、その機会を得ることができました。筑波大学の校友たちは一般的にひかえめな方が多いのですが、インタビューを行う中でお2人の

ひかえめな性格と同時に、その誠実さに感動しました。日本で学び、日本人と共に仕事をするなかで磨かれた礼儀正しさや謙虚さとともに、その骨の髄には台湾人の熱意と豪快さ、義理堅さが秘められています。

今回のお2人の校友へのインタビューは、ファミリーマート本部にある金色の富士山の絵が掲げられた会議室で行われました。私と、筑波大学で博士号を取得して台湾に昨年帰国した何承融が担当し、とても和やかな雰囲気のもと、楽しく参考になるお話をお伺いできました。

■インタビュー

日本留学のきっかけ

潘：私はもともと警察官です。台湾の警察大学で勉強し、卒業後、警察で8年間働きました。32歳のとき交流協会（現在の日本台湾交流協会）の奨学金に合格して日本に留学し、修士課程で学びました。でも、警察大学で学んだのは法律でした。後輩に筑波大学を勧められたのですが、当時は今のような情報が簡単に得られる時代ではありません。日本にやって来たら、筑波大学の法学研究科は博士課程だけしかなく、博士の学位を取得するのに8年かかった学生もいると、教授から聞かされました。

私は当時、結婚していて妻は台湾で教職に就いていました。私はそんなに長く日本に滞在することはできません。そこで、経営・政策科学研究科の修士課程に志望を変更しました。当時の経営・政策科学研究科には、企業から派遣された多くの社会人が学んでいました。仕事を持ち、給料をもらっている人たちで、現在のEMBAのよう

專訪緣起

從2017年開始，筑波大學台灣辦事處的大庭良介教授與我，就多次帶著筑波大學的教授與研究生們，到全家便利商店的總公司，拜訪本校的優秀校友潘進丁會長。一同討論與母校產學合作的可能性，由潘會長帶領的全家便利商店團隊，開拓了我們實務上的視野，進行了多次的產學合作交流。

潘進丁先生也在2016年2月創立的筑波大學台灣校友會中，擔任副會長一職，對校友會的貢獻良多。張建中先生更是和筑波大學台灣校友會的林華章會長，在筑波大學同窗時期便是默契十足的好友，不僅年年不缺席地參加校友會的活動，並且在校友會總會後的懇親會中捐獻全數的紅白酒，當然我們是到全家便利商店預約風評最佳的紅白酒，

校友們難得相聚一堂，把酒言歡，好不盡興。誠心感謝他對校友會的支持。

這次在台灣校友會的幹事會中，提出本期會刊想要專訪這二位企業界優秀的校友的想法，馬上獲得全體幹事一致的同意。但包括林華章會長在內，幹事們都很擔心：這二位高階專業經理人，是否可能在百忙之中，抽出時間接受我們訪談？但事實證明，愛校的心把大家串在一起，我們在訪談的過程中深深的被二位校友所感動，雖然筑波大學的校友們的個性都較為內斂，但就像他們這樣，個個都沉穩內斂卻又有顆真誠的心，包含著留日期間以及和日本人合作多年磨練出來的彬彬有禮、謙虛仔細，骨子裡又是台灣人的熱情豪爽、重情重義。

在全家便利商店集團的總公司，我們在掛著金色富士山的會議室，我和去年才從筑



な課程でした。私はこの研究科は私にぴったりだと思い直しました。なぜなら、私も留学前に8年間働いていたのですから。ただ、今まで商学や経営学について学んだことはありません。そのため、大学院に入るために研究生として1年間過ごし、ゼロから商学関連の基礎を学びました。とても苦労しました。

張：私の場合は半年の研究生の期間を経て、大学院に進みました。しかし、修士論文を書くのに通常より1年長くかかってしまいましたので、潘会長より半年長く筑波大学で学んだことになります。

厳しい教師のもとで優秀な生徒が育つ

潘：私はとても幸運でした。筑波大学の指導教授はとても厳格な先生で、司馬正次という方でした。先生はのちに米国のマサチューセッツ工科大学（MIT）の客員教授を務めています。インドでも教鞭を執られた経験があり、経営学の分野で大変高名な先生でした。先生の専門は2つの分野がありました。1つはQCと呼ばれる品質管理で、もう一つは現在で言う「ビッグデータ分析」と呼ばれるものでした。先生は当時、キャンパスに来ることはあまりなく、日立やセイコー、NECなどの大企業の「世話人」をしていました。今なら「顧問」「コンサル」と呼ばれる仕事です。私は先生の力バンを持ち、先生の後について各大企業を巡り歩きました。当時、先生が各企業で語っていたのは、「PDCA」という概念です。

「PDCA」とは、Pが計画Plan（計画）、DがDo（実行）、CがCheck（確認）、Aが

Action（改善）です。物事を分析し、複雑なものを単純化し、計画にもとづいて経営戦略を立て、一步一步改善し、誤りがあれば引き返す、まさに一つの循環を描くのです。これは司馬先生から受けた啓蒙で、私は非常に深い影響を受けました。私たちは台湾に戻った後、事業の草創期に多くのミスを犯しました。全台物流は名前の通り、台湾初の物流会社でした。私たちは日本からノウハウを持ち込み、日本人も台湾に来て協力していましたが、台湾と日本は背景事情やインフラの整備も異なるため、ゼロから始めたのと同然でした。私たちは、司馬先生のこの概念、PDCAの循環を使って、失敗から進歩を探り、失敗の度に修正を行いました。ファミリーマートは最初の1店舗から、現在は3,145店舗に増えています。売上高は1、2万台湾ドルから、800億台湾ドルに成長しています。私は元々、商学を学んでいませんから、すべては司馬教授のご指導のおかげです。

また、先生は当時、私をNECに連れて行き、副社長に私を紹介してくださいました。当時のNECの副社長というのは、とても地位の高い存在で、私は千葉・我孫子にある研究施設に出入りするようになりました。研究内容は、現在で言うインターネットで、30～40年前の超先端技術でした。

私は研究所の社員と一緒に働くようになりました。当時、社員証のカードがあり、社員食堂でこのカードを読み取って食事をする仕組みでした。今では当たり前のことかもしれませんが、当時はとても創造的な新しい技術でした。その研究所は基礎科学研究を行い、実際にモノを作る特殊な

波大学拿到博士學位回台的何承融二位，與潘進丁、張建中校友進行了一場輕鬆愉快且受益良多的深度訪談。

■專訪

留日契機

潘：我本來是警察出身，念的是警察大學，畢業後曾在警界任職8年，在32歲那年考上了日本交流協會的獎學金，所以赴日攻讀碩士。但在警察大學時學的是法律，因為一位學弟的介紹，得知筑波大學是一所不錯的大學，但當時不像現在資訊發達，我人已經到了日本之後，才知筑波大學的法學只有博士課程，聽教授說當時有位學生花了8年才拿到學位。那時我已經結婚了，太太在台灣教書，我不可能在日本待上那麼多年，所以我就轉學到經營政策研究所的碩士班，當時的「經營政策研究所」有很多公司派遣來的社員，帶職帶薪的，像是現在的EMBA的性質。所以我覺得這樣的課程反而適合我，因為我也是工作了8年才再出國留學的，但是因為我從來沒有學過商科，所以在研究生的那一年，為了考院生，我從頭開始讀所有商科的基礎課程，非常辛苦。（註：日本的研究所稱為大學院，正式的研究生稱為院生；而研究生為考入正式生之前的過渡時期，以半年為單位，當年多數到日本就讀碩博士的學生都有經歷過研究生的階段）

張：我是只當了半年研究生，就考上院生，不過寫論文時我多留了一年，所以最後我比潘會長在筑

波大學多留了半年的時間。

嚴師出高徒

潘：我運氣非常好，在筑波大學時的指導教授是位非常嚴格的老師——司馬正次，他後來也到美國MIT當客座教授，也到過印度，在管理方面是位有名望的教授。他的專長有二個領域：一個是QC，也就是品管；另一個就是現在說的大數據分析。當時他很少在學校，在HITACHI、精工、NEC等大公司擔任「世話人」，也就是現在「顧問」的意思，我成天就跟著他走訪各大公司，幫他提皮包，他到各公司講的一個概念，叫做「PDCA」，P是Plan、D是Do、C是Check、A是Action，把事情通過分析，把複雜變簡單，根據計畫做出經營策略，一步步去改善，發現錯誤再倒退，就像



研究室で、一般人は入れません。教授の紹介がなければ、私はそのような場所で学ぶことはできませんでした。

私の教授は本当に厳しい方でした。張氏もそれを証明できます。当時はとても大変でしたが、今振り返ってみると、私はとても運がよかったと思います。

もう一つ深く印象に残っていることがあります。論文の最終段階で先生にご相談しなければならなかった時、先生は大変お忙しくて学校では時間が取れなかったため、休日の夜に私が先生のお宅にお邪魔することになりました。論文のご相談が終わったときは深夜でした。その日は2月で、日本では一番寒い時期で大雪が降っていました。家に帰ろうとすると、自動車が凍ってエンジンが掛かりません。その後、先生と先生の奥様が車を押してください、なんとか動かすことができました。先生からは、後で奥様に「学生さんの車のタイヤにはチェーンをつけていないから、万が一雪道で滑ったら危ないじゃない。事故でも起こしたらどうするの!」と叱られたと伺いました。

長く続く友情

張：司馬教授と比べると、私の指導教授だった江藤先生は、温和な性格な方でした。ただ、当時は施設が整っておらず、大学の中に研究室さえありませんでした。授業の内容も難しかったので、学生とは少し距離がありました。しかし、私が修了後に台湾に戻ってからは、先生は毎年台湾に来てくださいました。そして先生がいっしょの時は、私たち経営・政策科学研究科の

同窓会となりました。

研究室はありませんでしたが、筑波大学の時のチューター（留学生のお手伝いを担当する学生）とは、今でもずっと親友です。知り合って30年以上が過ぎましたが、今もたびたび互いを訪ね合っています。彼はスポーツの歴史を研究しており、現在は東北地方の青森の大学で教授をしています。彼はとても責任感があり、私の日本語の文章を何度も直してくれるなど、とても助けられ、深い友情で結ばれるようになりました。

不便な入浴

潘：当時の学生寮には浴室がありませんでした。学生は入浴のために、共同浴場に行かなければなりません。学生寮に浴場は一つしかなく、日本の年末年始は営業していません。大学にとどまっている外国人学生は入浴する場所がありませんでした。留学時代の後半は家族向けの宿舎に暮らし、独自の浴室がありました。年末年始になると、友人にお風呂を貸していました。

張：私と潘会長は、バドミントン仲間でした。毎週決まって体育館に出かけ、バドミントンをしました。この運動の習慣も実がお風呂に関係しています。体育館には無料で利用できるシャワーがありました。私たちはバドミントンをするついでにシャワーを浴びていたのです。

長年の読書

潘：私は日本の長編小説を読むのが好きです。好きな作家は浅田次郎と山崎豊子で

一個循環。這是司馬老師給我啟蒙，影響我非常深。我們回台灣後的草創時期，做錯了很多事，全台物流故名思義就是全台灣第一家物流公司，雖然我們從日本引進了KNOW-HOW，也有日本人到台協助，但也是要從零開始，因為台灣和日本背景和各項基礎建設都不一樣。我們就使用這個經營的概念，使用PDCA的循環，在錯誤中求進步，一次次的修正，全家從第1家到現在3145家，營業額從1、2萬到現在800億。因為我原本不是學商的，而這一切都要感謝司馬教授給我的指導。

而且當時老師直接帶我到NEC，向副社長引薦我，當時的NEC的副社長，層級非常高，然後就讓我在一個叫做「我孫子」（註：地名，在千葉縣）的實驗室裡，研究的內容就是現在的網路，在三、四十年前，是極端先進的技術。我就跟著裡面的社員上下班。當時就有員工證，在員工食堂吃飯就是用刷卡的，這個在現在覺得很普通，但在當時是非常創新的技術，因為那個實驗室就是一個把基礎科學研究，實作出來的一個特殊研究室。一般人是不可能進得去的，要不是有我的教授幫助我，我是不可能進到那樣的地方學習的。

我的教授真的非常嚴格，張董可以作證，當時很辛苦，但現在回起來，真的覺得自己非常幸運。

還有一件讓我印象深刻的事情：我在論文的最後階段，需要和老師討論，但老師實在太忙，我們在學校都約不到時間，所以老師只好要我假日晚上到老師家去。那時是2月，日本最冷的季節，我們討論完論文已經夜深了，那天剛好下大雪，我要回家時，發現車子冰凍，引擎發不動。後來是老師和師母出來幫我推車，才勉強救援成功。

我記得那時老師說他還被師母罵一頓：學生的車沒有上鐵鍊，下大雪的路上萬一打滑了多危險，學生出了什麼事怎麼辦？

友誼長存

張：跟司馬教授比較起來，我的指導教授是江藤老師，個性溫和，但是當時他缺乏資源，在大學裡連研究室都沒有。上課的內容也難以理解，所以和學生不太親近。但我畢業回台後，教授每年都來台灣，而且每年他來台灣的時候，就是我們經營政策研究科的同學會。

雖然沒有研究室的資源，但我和我在筑波大學的Tutor一直到現在都是摯友。我們相識三十幾年了，到現在還經常互訪，他讀的是體育史，現在在東北青森的大學當教授，當時他就很盡責，常常幫我修改日文，幫助我很多，建立了深厚的友誼。（備註：日本的大學有設立Tutor制度，學校會支付薪水給日本人Tutor，以幫助留學生適應環境）

洗澡大不易

潘：當年的宿舍都沒有浴室，學生要洗澡要到澡堂，很多個宿舍共同一間澡堂，而且在日本的新年期間沒有開放。但留在學校的留學生就沒有地方可以洗澡。我留日後期住的是帶家眷的宿舍，有獨立的浴室，所以每年這個時候都會借同學們洗澡。

張：我和潘會長是打羽毛球的球伴，每週固定一起到體育館打球，我會有這個運動習慣其實也和洗澡有關係。體育館有淋浴設備，可以免費使用，所以我會趁打羽毛球的機會順便洗澡。

す。まるでアイドルを追いかけるように、彼らの作品を全部集めています。壮大な長編作品はとても素晴らしい。今では年をとってしまい、長時間の読書は目が疲れます。ただ、便利なのはYouTubeにあるこれらの名作小説の朗読です。私はよくこれを聴いて、小説の中の素晴らしい場面を改めて味わっています。

本の出版

潘：ただ、私はその後、小説を読む機会が激減しています。主な理由は、仕事のために読まなければならない日本の雑誌などが多すぎるためです。たとえば、毎週の「ダイヤモンド・チェーンストア」「日経ビジネス」「東洋経済」などです。しかし、こうした雑誌は、私が自分の本を出すきっかけにもなりました。私には習慣があって、日本のビジネス雑誌を読んで見つけた価値ある記事を、その都度、切り抜いています。時間を見つけて整理して、社内の刊行物で紹介していました。もともとは最新の経営概念や事例研究を社内でも共有したかったからですが、その後、メディアで働く友人の働きかけで、台湾の「経済日報」でコラムを書くようになりました。これがまともな第1冊目の「當巷口柑仔店變成Walmart」となり、さらに「商業週刊」からは2冊目の「O型全通路時代26個獲利模式」が出版されました。

経営の「翻訳者」として

潘：台湾のファミリーマートの大株主は

すべて法人です。私たち2人が筑波大学を修了して戻ってきたとき、最初は何も分かっていませんでした。そのため、企業側は多くの日本人を台湾に派遣してノウハウを伝えました。しかし、日本のノウハウを、台湾で使えるノウハウに変換しなければなりません。この「翻訳」の作業は単に言葉の問題にとどまりません。いかにノウハウを消化吸収して、台湾で活用できる形に訳し、日本とは異なるビジネスモデルに修正できるか？そのカギは、その翻訳が可能な人物であり、そのような人物がいてこそ、こうした転換が成功するのです。

その人物は日本文化に通じ、台湾と日本の双方の考え方を理解していなければなりません。何か問題やトラブルが生じて、互いが「なぜ、こうなるのか」と疑問を抱いたとき、その人物は説得ができ、ときに思考を切り替え、相手の立場にも立てる、これこそ「翻訳」ができるということです。なぜ、サービス産業における国際化がこんなに容易でないのか？なぜ、多くの企業が国境を越えた提携に失敗するのか？それは、こうした「翻訳」の人材が欠けているからです。張氏と私はまさに、その役割を担っています。これこそがプロの経営者の仕事なのです。

私たちは、セブンイレブンよりも10年遅れて事業を始めました。以前は、周囲の店に挟み撃ちにされる苦しい状況もありましたが、ファミリーマートは確かな計算の下で、一軒一軒と生き残りました。この30年の間に、台湾のコンビニエンスストアの業態が形づくられ、上位2社が80%以上の市場を占める寡占状態にあります。私たちは、台湾の流通業の現代化を見てきま

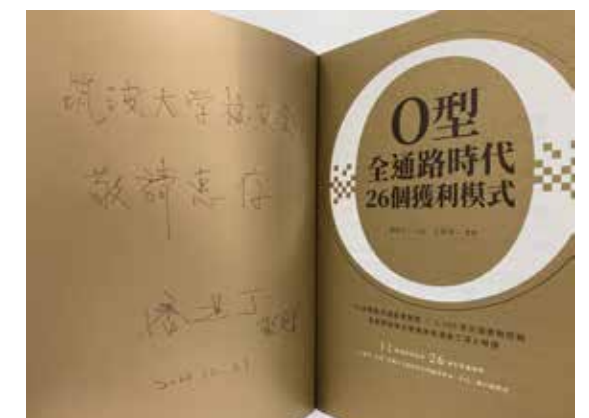


長年閱讀

潘：我喜歡閱讀日本的長篇小說，喜歡的作家是淺田次郎、山崎豐子。就像追星，他們的作品我全部都搜集，那些大部頭的長篇小說都太精采了。現在年紀大了，眼睛受不了大量讀書，但現在好方便喔，因為YouTube都有這些經典小說作品的朗讀。我常常聽這些朗讀，重溫小說中精采的片段。

出版書籍

潘：不過其實我後來閱讀的量大幅減少了，主要的原因是因為我的工作上需要看的日本期刊實在太多。舉凡每週的DIAMOND Chain Store（ダイヤモンド・チェーンストア）、日経Business（日経ビジネス）、東洋經濟等等。但其實這也是我出書的緣起。因為我有個習慣，我在這些日本的商業期刊



上看到值得分享的文章，就直接把書頁撕下來。找時間整理出來，發表在公司的內部刊物上。一開始是希望和公司同仁分享最新的經營概念及Case Study，後來得到媒體朋友的牽成，才在經濟日報專欄連載，也才有了後來的集結成冊。那是第一本書〈當巷口柑仔店變成Walmart〉，而商業週刊的是去年出版的第二本〈O型全通路時代26個獲利模式〉。

した。伝統から現代への変遷のなかで、最も変化したのは物流です。以前は製造業者からの直送でした。全台物流のようなインフラが重要なカギとなったのです。幸いにも、張氏はあのとき、私と手を組んでくれました。彼は縁の下英雄なのです。そして現在、物流は電子取引の「EC物流」に再び転換しようとしており、Online to Offlineが現在、最も重要な任務になっています。

後輩に贈る言葉

潘：大学の先生は、それぞれが独自の専門知識と専門分野を持っています。閉じ籠もって勉強しさえすれば、何かを学べる

とは限りません。学生時代に、もし先生と深く関われば、更には先生を通じてより多くの外の世界に触れることができれば、ときには、人と人との「絆」や「繋がり」が多くの貴重な経験をもたらしてくれます。筑波大学はとても特別で、体育や美術を学ぶ専攻もあります。単に自分の専攻分野だけではなく、できるだけ多方面の経験をして、先生や異なる世界とのつながりを大切にしてください。後輩の皆さんに、私ができるアドバイスです。

張：私も同感です。

(以上)

(訳：西本 秀／国際関係学類卒 朝日新聞台北支局 前支局長)



專業經理人

潘：我們公司的大股東都是法人，我們二個從筑波畢業回來，一開始什麼都不懂，所以公司派了很多日本人來台灣移轉KNOW-HOW。但要把日本KNOW-HOW轉譯成台灣能用的KNOW-HOW，這個「翻譯」的過程，當然不是只有語言文字上的。如何在經過吸收消化過之後，用台灣的方式移轉，修正成和日本不一樣的商業模式？而其中的關鍵是必須要有這樣的一個人，一定要能找到這人，這個移轉才會成功。這個人要懂日本文化，理解雙邊的思維模式，在發生爭議糾紛的時候，在互相質問：為什麼要這樣？的時候，能去說服、轉換、包

容，也就是能「翻譯」。為什麼服務產業上的國際化那麼不容易？很多公司在跨國的合作上都失敗？就是欠缺這樣人才。張董和我正是扮演這樣的角色，這就是專業經理人的工作。

我們比7-11的起步晚了十年，以前是被好鄰居雙面夾殺的處境，而全家在精確的計算下，一間一間的活下去。在一路走來的這三十年間，台灣的便利商店業態就這樣定下來了，前二大超商的市佔率已經超過80%以上，也就是寡佔市場。我們見證了台灣的流通業的現代化，從傳統到現代的變遷，而其中最大的改變就是物流，以前都是廠商直送。像全台物流的基礎建設就是關鍵，還好張董當年願意過來和我一起，他是幕後英雄！而現在的物流又開始轉成EC物流，也就是電子商務，所以虛實整合也就是目前最緊要的任务。

給後輩的話

潘：我認為學校裡每一個老師都有他獨特的專長，有其專業的領域，在大學時期，如果能跟老師有更深的接觸，甚至透過老師去接觸更多外面的世界，不見得只有封閉式的讀書才能學到東西，有時候人與人之間的「絆」（kizuna）、「繋がり」（tsunagari），都會帶來許多寶貴的經驗。筑波大學很特別，還有體育、藝術學院，所以不只是在自己的專攻上，盡可能的多方接觸，珍惜這些與師長、不同領域的連結，我覺得是我現在認為可以提供給後輩的建議。

張：深有同感。

(文：林佳瑤 筑波大學台灣辦事處)



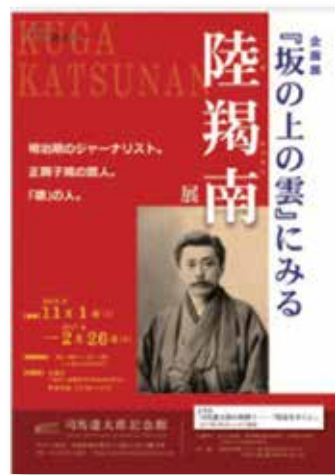
陸羯南と台湾日日新聞— 「司馬遼太郎からの宿題」の宿題（後編）

文●高木 宏治（社会学類 筑波大学非常勤講師・陸羯南研究会）

2009年1月、羯南の故郷、弘前で新たに発会した陸羯南会の発会式では、「日本画報」についての講演をさせて頂いた。羯南の故地に出来た会と、この後、種々の活動で連携させて頂き、今後も弘前、青森に残る資料の発見等で一緒にしていければと考えている。

2010年から2011年にかけ、松山市の坂の上の雲ミュージアムの第4回企画展「新聞『日本』と子規」に関しては、展示内容についてのお手伝いをし、会期中に羯南の伝記の著者でもいらっしゃる有山輝雄教授、前述の中野目教授と3人でパネルディスカッションのパネラーの一人として講演させて頂き、羯南の現代的意義の議論が繰り広げられた。

2012年10月には、母校筑波大学で、学園祭の期間中に、そのイベントとして、「司馬遼太郎と青木彰名誉教授展」を開催した。この展示会は、2015年に横浜の日本新聞博物館で開かれた展示会の原型ともいえる展示で主として両氏の出会いと、両氏の追究しようとした羯南と新聞日本の人々の関係資料を中心としたもので、非常に地味な展示内容としては多数の観覧者が来訪した。



2013年12月には、大阪商業大学の持つ商業史博物館で、「明治黎明期の言論界、陸羯南・三宅雪嶺と上方の人々」という展示会を開催、これまで収集してきた資料を展示させて頂いた。

併せて、同博物館が、司馬遼太郎記念館に近接していることから、司馬さん、

青木先生の目指した羯南研究について講演をさせて頂き、聴衆の中に産経新聞のOBの方がいらしたこともあり、大いに活発な議論となった。

2014年5月には、本業の関係で中国の首都北京に転勤した。

その夏、まえまえから依頼のあった、松山市子規記念博物館が、「子規と小日本」というテーマの展示会を開催にあたり、収集した資料の中に、同博物館も所蔵していない小日本の付録を貸出、出品した。併せて「羯南の日本、子規の小日本」と題する講演を行い、新聞日本にとっての小日本の存在の位置づけ、その紙面の特殊性、羯南と子規の関係について述べさせて頂いた。

同時期に東京大学の丸山眞男先生のお弟子さんたちが発行している「丸山眞男手

陸羯南與台灣日日新聞— 「來自司馬遼太郎課題」的大課題(後篇)

文●高木宏治（社會學類 筑波大學非常勤講師・陸羯南研究會）

2009年1月 於羯南先生故郷弘前新成立の羯南會成立大會上本人很榮幸針對「日本畫報」做了相關的演說。今後期待能和羯南家鄉成立的羯南研究會共同舉辦各種活動，以及參與發掘遺留弘前，青森的羯南資料。

2010年到2011年期間，本人於松山市坂上之雲博物館策展的第4次「新聞『日本』與子規」，參與相關的展示內容，同時在會期中本人忝為與談人與羯南傳記作者有山輝雄教授，以及前述中野目教授3人論壇中，對於羯南的現代意義作了廣泛論述。

2012年10月母校筑波大學學園祭期間作為先行研究活動舉辦了「司馬遼太郎與青木彰名譽教授展」。此次展覽成為日後2015年在橫濱日本新聞博物館舉辦的展覽會之雛形，展出內容主要以二氏相知相遇，以及一心想探究司馬先生和青木彰教授的羯南先生和新聞日本的眾多人士之間的相關資料為主，看似極其素樸的展示內容，卻招徠參觀人潮。

2013年12月於隸屬大阪商業大學之商業史博物館展出「明治黎明期之言論界、陸羯南，三宅雪嶺與關西人士」，展覽會上展示了目前所蒐集到的所有相關資料。同時，因該博物館鄰近司馬遼太郎紀念館，本人很榮幸得以司馬，青木兩位先生努力的目標-羯南研究為題進行演講，與會者不乏產経新聞的OB前輩們，會議中熱烈討論擦出火花。

2014年5月因工作關係，調職中國首府北京。

同年夏天，適逢早在之前就被委託的松山市子規紀念博物館正策展「子規與小日本」，而蒐集的資料中剛好有博物館內沒有收藏的小日本附錄，於是外借展出。同時，並進行了一場「羯南的日本，子規的小日本」為題的演講。對新聞日本而言給予小日本的存在定位，以及報紙的特殊性，再來就是闡述羯南和子規的關係。

同一時期本人接受東京大學的丸山眞男老師弟子們發行的「丸山眞男手帖」停刊號(69號)的邀稿，遂從丸山眞男父親・丸山幹治如何活躍於新聞日本，並以「陸羯南與丸山幹治・眞男父子」為題綴成一文，刊於該刊物。

2015年1月弘前郷土文學館舉辦的「陸羯南特展」本人也參與其中略盡綿薄，6月開始召開的橫濱日本新聞博物館之「孤高的新聞日本，羯南・子規的奮戰」，以研究會之名予以支援提供資料借展。

8月1日舉行的公開講座中，本人以「司馬遼太郎・青木彰留下的習題～羯南的磁場及多面性」為題演講。在進行東亞時論復刻之際，承蒙橫濱市立大學前校長加藤祐三先生不吝賜教給予本人熱烈奧援。此展覽展期從12月至翌年2016年2月，期間於弘前市立博物館的展出，更換部分展出內容以「陸羯南及他的時代」為展題。

2016年11月1日(週二)開始至2017年3月5日在大阪司馬遼太郎紀念館舉行的「『坂上之雲』看陸羯南」展覽會，本人對

帖」の休刊号（69号）に原稿依頼を受け、丸山眞男の父・丸山幹治が羯南の新聞日本で活躍したことから「陸羯南と丸山幹治・眞男父子」とする一文を寄稿させていただいた。

2015年は、1月に開催された弘前郷土文学館で開会された「陸羯南展」にはご協力させて頂き、6月から開会された横浜の日本新聞博物館の「孤高の新聞日本、羯南・子規らの格闘」には研究会として後援させて頂き、資料の何点かを出品させて頂いている。

8月1日に開催された公開講座では、＜司馬遼太郎・青木彰からの宿題～羯南の磁場と多面性＞と題して、講演させて頂いた。東亜時論の復刻にあたって、解題を頂いた元横浜市立大学学長の加藤祐三先生から、熱いエールを頂戴した。この展覧会は12月から2016年2月にかけて、弘前市立博物館で、一部模様替えして＜陸羯南とその時代＞展として開催された。

2016年11月1日（火）から、2017年3月5日にかけて、大阪の司馬遼太郎記念館では、「『坂の上の雲』にみる陸羯南」の展覧会が開催されたが、企画、資料の貸出し等の後援を行った。

陸羯南が、初代の幹事長であった東亜同文会の資料復刻を行ったことで、東亜同文会の後継団体である、霞山会と御縁が出来た。折から、初代会長であった近衛篤磨の映像資料の作成に取り組んでいた霞山会からの依頼で、映像資料製作にあたっての基礎資料を作成した。また同会が2016年から連続して行った、アジア理解講座の中で、次のような講演を行った。

2016年12月10日「近衛篤磨とその時代—近衛篤磨と明治アジア主義」（立命館大学）「近衛篤磨と明治言論人」

2017年12月10日「歴史に学ぶ 明治期アジアへのまなざし—より良き関係構築を目指して」（立命館アジア太平洋大学）「東邦協会—近衛篤磨・陸羯南のアジアへの視線」

2018年4月28日「明治アジア主義と東北・津軽 近衛篤磨、陸羯南そして東亜同文会をめぐる人脈」「近衛篤磨・津軽英磨兄弟と陸羯南」

この一連の講演によって、改めて、羯南の生涯における、近衛篤磨の存在の大きさが再認識され、その交流の研究を、弘前の陸羯南会発行の会誌に連載をしている。

また、羯南の生涯の友であった、いわき出身の天田愚庵を顕彰する愚庵会の招きで二人の友情をテーマに講演を行った。

2018年2月10日「愚庵の義侠 羯南の情理」

改めて、司馬さんと青木先生が陸羯南研究で目指したものは、何だったのだろうか。お二人は、同じ戦中世代として、人間を最も苦しめる戦争への危機感を共有していた。司馬さんは、インタビューの中で、自分自身の小説は、終戦の日の自分への手紙、メッセージだと語っていた。司馬さんの没後、青木先生は、シンポジウムの中で、自分自身が、司馬さんから、陸羯南研究、という大変重たい宿題をもらっていると話している。そして、同時に、司馬さんが、陸羯南研究を大変重要視していたのは、太平洋戦争の原因を追究した場合、一つには軍部の暴走があったことと、もう一つは新聞・出版・放送な

其企劃，資料出借展出等予以支援。

陸羯南出任第一代幹事長の東亜同文会因為要進行資料復刻版，本人得與東亜同文会后繼團體[霞山會]結緣。因當時霞山會剛好正全力投入製作該會第一代會長近衛篤磨影音資料製作，受其委託完成了影像資料製作所需的基礎資料。其後該會於2016年一系列[理解亞洲講座]中，本人做了下列演講。

2016年12月10日「近衛篤磨之時代—近衛篤磨與明治亞洲主義」（立命館大學）「近衛篤磨與明治言論人」

2017年12月10日「面對歷史、學習 明治時期的亞洲關心—朝向建構更友善的關係」（立命館亞洲太平洋大學）「東邦協會—近衛篤磨・陸羯南的亞洲視角」

2018年4月28日「明治亞洲主義與東北・津軽 近衛篤磨、陸羯南以及東亜同文会之人脈為中心」「近衛篤磨・津軽英磨兄弟與陸羯南」

經由此一連串演講，重新認識在羯南生涯中近衛篤磨是多麼重要的存在。有關他們之間交流互動的研究連載於弘前陸羯南會發行的會誌中。

另外，羯南生涯中的好友，岩城出身的天田愚庵先生，後人彰顯其事蹟成立的愚庵會，本人應該會邀請，以羯南和愚庵二人友情為題進行演講。

2018年2月10日「愚庵の俠義 羯南の情理」

再回到司馬先生和青木老師二人對於陸羯南研究，其追求的目標何在?二人同為戰亂中人，擁有相同世代受到戰爭之苦的危機感。司馬先生在訪談中說到，自己的小説就是給自己終戰日的一封信、一個訊息。司馬先生辭世後，青木老師在研討會中提到，司馬先生給了自己一個沉重的大習題，那就是

陸羯南研究。同時司馬先生之所以重視陸羯南研究是因為當追究太平洋戰爭原因時，固然一部分是軍部的脫序行為，再者就是報界，出版界，視聽媒體的煽動有以致之。但要究其真正起因，陸羯南研究是不可或缺的。

巧的是二人戰後，同為媒體新聞人，深感要避免再次把日本，日本人導入戰爭慘禍，以及為了堅守民主主義，所謂的脆弱的言論自由是絕對的必須。

而確保言論自由的重要手段之一是媒體報紙，曾為其源流的重要人物陸羯南，研究羯南，他所培育的人才成為日後日本新聞界主要基幹，爰此二氏談論到應該讓羯南廣為日本人所知的重要性。

青木老師留下了一心想要整理歸納的陸羯南相關著作的目次稿。

其中標題為「陸羯南與新聞「日本」（暫定）」開宗明義提出了：

「為何要研究陸羯南

現代日本的思想狀況與羯南

今日新聞界的危機與羯南」

青木老師承繼司馬先生未竟之志的大作中致力刨根掘底想重新認識羯南的言論活動究竟對於現代日本思想狀況具有多深遠意義。眼下新聞界的危機，羯南在世又會如何面對?以研究羯南經營的新聞日本，反觀現代新聞的現況等・諸此種種都是青木老師想要提出的質疑。

雖是未完成之作，值此21世紀，超過20世紀以上新聞界的危機愈益嚴重的現代，透過重新審視羯南先生，持續質疑新聞的本義，個人認為必能導引出司馬先生，青木老師當年提出質疑的答案。

長久以來報業和商業營利兩相矛盾互不相容之下，對於質疑新聞出版的目的這種根本問題，或許羯南和新聞日本的有志之士的軌跡正為後人點燃了一盞明燈。

どのメディアによる煽動が大きな影響を与えたので、その源流を探る為にも羯南研究が必須と考えていたのでは、と語っている。

奇しくも、戦後二人は同じ新聞人の道を歩いたが、再び日本・日本人を戦争の惨禍へ導かないためにも、民主主義を守るために、言論の自由という、失われやすいものが必須要件の一つだと痛感していた。

自由な言論を守るための重要な手段の一つが新聞であり、その源流の一人としての陸羯南を調べ、彼の育てた人材がその後の日本の新聞界の大きな部分を形成していったことから、羯南を日本人に知らしめることの重要性を話し合っていたのだと思う。

青木先生が、まとめようとしていた陸羯南に関する著作の目次案が残されている。

「陸羯南と新聞「日本」（仮題）」というテーマの目次の冒頭に、

「いま何故、陸羯南か

現代日本の思想状況と羯南

今日のジャーナリズムの危機と羯南」

という問題提起がなされている。

青木先生は、司馬さんの遺志を継ごうとした著作で、羯南が行った言論活動があらためて現代日本の思想状況にどのような意義を持つのか掘り下げようとした。そしてジャーナリズムの危機的な状況を目前にして、羯南であればどのように立ち向かったらどうかということを考察し、現代の新聞の在り方を、翻って羯南の経営した新聞日本を研究することで問おうとした。

未完となった著作だが、21世紀の今、20世紀以上にジャーナリズムの危機が深刻

化している現代にあって、あらためて羯南を見つめなおすことで、新聞の本義を問うことを続ければ、司馬さん、青木先生の問題提起に一つの解を導き出すことが出来ると思う。

常にジャーナリズムとコマーシャリズムが相克する経営の中で、何のために新聞を出すのか、という根本的な問いに対して、羯南と新聞日本の人々の軌跡は一つの灯りをともしている。

明治39年、羯南は、日本新聞社を売却、翌年、失意のうちに、その生涯を閉じた。新しい経営者のもと、従来からの新聞日本育ちの人々は、その新しい編集方針に合わず、多くが退社していった。

退社した人々が、その後、朝日、読売、毎日等の各新聞で活躍し、日本の新聞界の主力となっていったが、これは、結果的に、羯南が育てた人材がいかん、有為の言論人となっていったかということで、死して後に、彼の視点の高さが証明されたことになる。

そして、また新聞日本を退社した一部の者は、日本を出て、海外で邦字紙を発行する道を選んだ。

新聞社売却より早い時期であったが、編集長であった末永純一郎は、その弟・節の兄弟で大連に行き、そこで、〈遼東新報〉を興した。新聞は、大連に住みはじめた日本人を主たる読者として、日本人の同地への入り込みが増加するに従って業容を拡大していったと言われる。

羯南の友人の一人で、新聞日本の記者でもあった国友重章は漢城日報で勤務した経験もあり、戦後を代表する政治学者丸山真男の父親としても有名な丸山幹治は、京城

明治39年、羯南賣掉了日本新聞社、隔年、失意中結束其一生。新的經營者入主新聞日本，而長期以來培養出的新聞人與新的編輯方針不合，大多相繼離開報社。

離職的這些人，日後分別活躍於朝日、讀賣、毎日等各家報社媒體，成為日本新聞界的主力軍，最終羯南先生培育的人才是多麼有守有為的言論人，在他辭世後更證明了先生視野的高度。

另外一些辭去新聞日本的人士，離開日本，選擇在海外創辦日文報紙。

早在報社轉讓之前，當時編輯部的總編輯末永純一郎與其胞弟末永節兄弟同往中國大連，在當地興辦〈遼東新報〉。據說主要讀者為開始入住大連的日籍人，隨著日後不斷進入當地的日人增多，報業日益擴大。

羯南先生友人之一、也是新聞日本的記者国友重章曾在漢城日報工作過，代表戰後的政治學者丸山真男他的父親有名的丸山幹治曾服務於京城日報。

隨著日本，以及這些日本人往來海外，日本報紙也就進入了國外的一些重要都市。

日清戰爭中國割讓台灣作為賠償，而售出日本新聞後，羯南親戚赤石定藏前往台灣，振興台灣的日日新報，明治45年成為該報社長，及至大正12年長達十數年時間負責經營日日新報的重責大任。

很諷刺的是曾是羯南得力助手，擔任報社財政負責籌措募集資金不遺餘力的赤石，最後以他過往豐富的經驗，和當年的羯南同樣成為新聞從業經營者，活躍於台灣報界。

其實早在赤石定藏之前同鄉淺水南八已經進入報社。淺水從新聞日本開始至日清戰爭以戰地記者活動頻繁，歸國後擔任主筆發揮長才，遂於明治36年經後藤新平介紹進入台灣日日新報。

同為新聞日本的記者齊藤信離開新聞日本後，轉至大阪朝日新聞，其後緣於青森東奧義塾學長赤石的牽線也進入台灣日日新報。

還有青森出身的花田節，辭去新聞日本後，歷經京城日報，大韓日報主筆，明治43年進台灣日日新報。擔任主筆，總務部長之職，惜於大正10年客死台灣。

從這一連串關係看來，可以想像曾有一段時間台灣日日新報宛若新聞日本在台灣重新復報一般。

實際的報紙究竟如何，剛好利用此次駐台機會希望找尋到第一手資料，期待能藉此稍稍填補諸多問題點。

目前從1898年到1944年的台灣日日新報內容由漢珍數位圖書將之數位化。

前面提到的原日本新聞社出身的多位人士，似乎在當時成為編輯、經營的主力，活躍一時，日日新報上可看到他們的名字。

赤石先生在明治43年10月16日報面上有他的〈昨日、來台〉稿子，這是他第一次的報紙寫稿。

10月25日有〈本日上京〉的報導，似乎為赴台作事前勘察，12月16日記載〈18日從神戶（中略）回台〉，看來當時已準備妥當正式來台赴任。

隔年明治44年3月12日記載〈本日南部出差〉。那個時代僅只是去南部出差看來也挺費時，3月18日報載〈昨日回報社〉。

這一年是西曆1911年，正逢中國大陸辛亥革命。革命是從10月10日武漢起義開始。

赤石，羯南的友人，也是日本新聞社關係的盟友，例如古島一雄、犬養毅等人士，有東亞同文會的關係，而前述於大連興辦發行遼東新報的報社，原日本新聞社同事的末永純一郎・末永節兄弟等都是情報訊息的來源。尤其末永節，與宮崎滔天交情篤厚，之

日報に勤務した。

日本及び日本人の海外進出に従い、海外の主要都市に邦字紙が展開していた。

日清戦争の賠償として割譲された台湾へは、日本新聞の売却後、羯南の親族であった赤石定蔵がわたり、台湾日日新報を興隆させ、明治45年、その社長となり、大正12年まで、十数年の長きにわたり経営を担った。

皮肉にも、羯南の右腕として、新聞社の財政を担当して、資金集め等で経営に格闘した赤石は、結果的にその経験を活かし、新聞経営者として羯南と同じ立場になり、台湾で活躍することとなった。

その新聞社には、同郷の浅水南八が既に入社していた。浅水は、新聞日本から日清戦争の従軍記者として活躍、帰国後主筆として腕をふるった後に、明治36年後藤新平の紹介で台湾日日へ入った。

同じく新聞日本の記者であった斎藤信は、新聞日本退社後、大阪朝日に移り、その後、青森の東奥義塾の先輩である赤石の縁で、台湾日日に入社する。

また、青森出身の花田節は、新聞日本退社後、京城日報、大韓日報主筆を経験し、明治43年台湾日日へ。主筆や、総務部長を務めたが、大正10年、残念ながら台湾で客死してしまう。

こうしてみると、一時期の台湾日日は、さながら新聞日本が、台湾で再生したかのような雰囲気があったのでは、と想像される。

実際の紙面はどうであったか、それは今回の台湾駐在の機会を活かして、オリジナルの資料にあたる機会をみつけ、大きな宿

題のコマを少しでも埋められればと考えている。

1898年から1944年までの台湾日日新報の紙面は、漢珍数位図書によって、デジタル資料化されている。

前記の日本新聞社出身の人々は、編集、経営の主力として活躍していたようで、紙面にもその名前が出て来る。

赤石は、明治43年10月16日の紙面に、＜昨日、来台＞の記述があり、これが最初の紙面への登場となっている。

10月25日には、＜本日上京＞の記事あり、台湾赴任にあたって様子を見にきたようで、12月16日には、＜18日 神戸から（中略）にて帰台＞、とあり、準備を整えて、本格的に赴任したものとみえる。

翌明治44年3月12日には、＜本日南部出張＞の記載もある。この時代、南方への出張も時間がかかったとみえ、3月18日の紙面に、＜昨日帰社＞と出て来る。

この年は西暦では、1911年、中国大陸では辛亥革命の年にあたる。

革命は、10月10日、武漢での蜂起から始まった。

赤石の、羯南の友人で、日本新聞社関係の盟友、古島一雄、犬養毅らは、東亜同文会の関係もあり、また、先に、大連で遼東新報発行の新聞社を興していた、日本新聞社の同僚末永純一郎・末永節兄弟からも、情報を得ていたものと思う。特に、末永節は、宮崎滔天との友情もあつく、その後、革命運動に深く入り込んでいったようだ。

赤石は、この動きを見て、情報収集のため11月5日に＜1ヶ月の予定にて昨日上京＞と、記載が出ている。

後涉入革命運動甚深。

赤石見此状況、為蒐集情報11月5日刊出＜昨日回京予定停留1个月＞的記載。

昭和3年5月1日、台湾日日新報創刊30周年為詩一首以茲紀念。

三十年のふりし（欠字）はあらためて
けふをはじめと思ひ定めむ
大丈夫の手に執り持たる手東弓 つよ
き心はいつもかはらじ

這首和歌，令人想起羯南的詩，如下。
執筆

真弓にも征弓にもかへてとる 筆のあとにや我は引返すへき
（牟多加記 雑の部）

由此可看出，他們共同的心聲，那就是文人手中的筆猶如針貶社會的一把弓箭。

昭和10年台湾和日本之間開通定期飛航班機，因此同樣又有和歌刊登日日新報。

鬼ヶ島 台が島も一息に 飛んで行かれる御代となりけむ

在當時船運往來的時代，雖然只是螺旋槳機，但飛機通航對於年輕時有國外經驗服

務於墨爾本領事館の赤石先生而言，應該是感慨良深的。

有關淺水南八，明治40年回日本之際，＜送淺水南八君歸東京＞為題，朋友們的6首送別和歌 佔了一整頁報面。

而淺水本人則以充滿了離情依依詩作回應如下。

筆とりて 三年五年契りたる この友がきは忘れたまふな

斎藤信於明治39年離開日本新聞社，移轉至大阪朝日新聞，其後復於明治44年4月進入台灣日日新報。一展文筆長才，惜因南方水土不服，僅2年半，大正2年9月客死台灣。

花田先生同様明治44年7月進報社，大正2年10月28日刊載歌頌台灣神社和歌一首。

翌年大正3年1月19日，有官民懇談會的報導，花田先生是幹部，名字出現其中。也許是為了採訪工作需要建立地方人士網絡吧。

如前面提到的，原日本新聞出身的人士各展長才活躍於台灣日日新報的報導俯拾皆是，其中尤以赤石資料龐大，筆者將重新寫稿，解析當時台灣的狀況，與日本的關係同時尋訪他足跡所到之處。

期盼今後校友會諸位，以及同窗賢達不吝溫馨賜教。（譯：孫寅華 地域研究研究科 淡江大學日本語文學系副教授）



※本稿是以横浜日本新聞博物館、2015年5月—8月舉辦的[孤高的新聞『日本』，羯南・子規的奮戰]圖鑑中，本人發表的文章經大幅訂正修改而成。

参考文献

「台湾日日三十年史」 昭和3年(1928年)4月 台湾日日新報社
「社史で見る日本経済史 植民地編 第34巻」 2004年9月 ゆまに書房
「特別展 陸羯南と正岡子規 図録」 2007年 青森近代文学館
「台湾日日新報」 電子版 漢珍數位圖書

昭和3年5月1日は、台湾日日新報の創刊30年の記念に和歌を送っている。

三十年のふりし（欠字）はあらためて
けふをはじめと思ひ定めむ
大丈夫の手に執り持たる手東弓 つよ
き心はいつもかはらじ

この和歌は、羯南の次の歌を思い出させる。

執筆

真弓にも征弓にもかへてとる 筆のあとにや我は引返すへき
（牟多加記 雑の部）

筆が、社会をうつ弓、という心が、共通していることがみえる。

昭和10年には、台湾と日本の間に定期航空路線がオープンしたので、同様に和歌を掲載している。

鬼ヶ島 台が島も一息に 飛んで行かれる御代となりけむ

船で往来が普通だった時代に、プロペラ機といえども、飛行機が就航したことは、若い頃からメルボルンの領事館勤務も経験をした海外派の赤石にとっては、感慨深いことであったことと思う。

浅水南八については、明治40年に日本への帰国にあたって、＜送浅水南八君帰東京＞として一面に友人たちが、和歌を6首送

っている。

浅水本人は、これに

筆とりて 三年五年契りたる この友がきは忘れたまふな

と、別れを惜しむ歌で答えている。

斎藤信は、明治39年に日本新聞社を退社、大阪朝日新聞に移ったが、更に、明治44年4月に台湾日日に入社している。健筆をふるったが、南方の風土があわなかったのかわずか2年半ほどの、大正2年9月に台湾で客死してしまう。

花田も同じ明治44年7月に入社、大正2年10月28日の紙面には、台湾神社を歌った和歌が掲載されている。

翌年3年1月19日には、官民懇話会の記事があり、そこでは、幹事として、名前があがっている。取材のための地元でのネットワーク作りをしていたのだろう。

以上のように、日本新聞出身者の活躍があちこち読み取れる台湾日日新報だが、特に赤石の資料は膨大で、これは、また稿を改めて、当時の台湾の状況、日本との関係も解析しながら、その足跡を辿ってきたい。

今後共、校友会の皆様、同窓の諸賢の暖かい御指導を仰ぎたい。



※本稿は、横浜日本新聞博物館で、2015年5月 - 8月に開催された「孤高の新聞『日本』 羯南・子規らの格闘」の図録に発表した拙文をもとに、大幅に訂正・加筆を行ったものである。



コロナ禍の筑波大学の奮闘記

文 ● 阿部淳一ピーター（筑波大学台湾オフィス所長）

新型コロナウイルス（以下、コロナ）と読むだけでストレスや恐怖を感じる会員が多いかと思う。しかし、台湾と日本におけるコロナ感染者数やコロナ拡大防止対策はあまり異なっているため、皆さんの母校である筑波大学の取り組みについて紹介したい。

台湾校友会にとってコロナ禍がもたらした最も大きな影響はやはり2月22日に開催予定していた総会の中止ではないでしょうか。今、振り返れば、林会長は極めて賢明でかつ即断即決をなされた。

コロナの始まりの頃

国際保健機構（WHO）は、2019年12月8日に武漢市でコロナの症例を確認したと報告したが、現在はコロナの火種はいつ、どこで燃え始まったかよくわからないという研究者もいる。そもそも、ウイルスは自己増殖ができないため、生物ではない。また、「病原菌」ではなく、「病原体」と30年前の「ウイルス学」の講義で習った。しかし、ウイルスは宿主の細胞に寄生し、宿主細胞を不活性（物質のため、殺すという言葉は使わない）しながら、ウイルス自身は増殖し、新しい細胞を寄生することができ、さらに、遺伝的な変異を起こし、より感染力が強いウイルスに変化することさえあるため、生き物とは思えない。

日本と台湾における初感染者（それぞれ1月16日と1月21日）はほぼ同時期でありながら、台湾政府は2019年12月からコロナ対策の準備を開始していたようで、春節（旧正月）後2月7日には、中国人の台湾入国の全面禁止など水際対策を講じていた。日本では3月19日から水際対策として入国者は14日間の自宅・ホテル待機と公共交通機関不使用などがやっと始まり、空港の検疫の検査実施整備後にPCR検査や抗原検査が行われるようになった。

台湾オフィスの業務と国立台湾大学の客員教員の共同研究のため、私は2月20日から3月18日まで渡台した。台湾ではマスクを購入するため、薬屋さんの前で列に並びながら待つ様子をよく目撃した時期であった。日本でもマスクの入手が少し大変になりつつ、妻に縫ってもらった布マスクを持参し、お土産にもマスクを買っていった。飛行機にはマスクしている旅行者は東洋人が多かったが、マスクしていないのは白人の旅行者が多かった。そのころ、台湾では春学期が始まり、学校でコロナ感染者を一人出すと学年閉鎖、二人出すと学校閉鎖と政府から注意喚起され、各教育機関はコロナ対策を講じていた。国立台湾大学では各建物の全ての入館者の体温を入り口で測定したり、身分証明書やマスクの着用を確認したりしていた。筑波大学は春季休業のため、講義が少なく、入構する学生も少ない時期であった。

新冠肺炎疫情中筑波大學奮鬥記

文 ● 阿部淳一Peter（筑波大學台灣辦事處處長）

我想，一讀到新型冠狀病毒(以下稱之為新冠)這個詞，就讓很多台灣的校友們感到壓力和可怕的感覺。但是，台灣和日本的新冠肺的確診數和防疫措施卻大不相同，在此我向各位校友們介紹母校筑波大學的種種防疫措施。

對台灣校友會來說，受到新冠肺炎疫情最大的影響應該是原本要在2月22日舉行的校友會總會取消了吧？現在回頭來看，這是林會長極為果斷英明的決定。

新冠病毒的起始

世界衛生組織(WHO)の報告は2019年12月8日に武漢市有了第一位確診者，但現在的新冠肺炎蔓延的火種是從何時何地開始？也有學者到現在都還不確定。但是病毒是不會自己繁殖的，因為不是生物。而且不是「病原菌」，是「病原體」，這在30年前我上過的病毒學的課堂上學過。病毒會在宿主的細胞裡寄生，讓宿主的細胞不活性(因為是物質・不能使用殺死這個詞)，而病毒就能繁殖，就可以在新的細胞中寄生。甚至可以發生遺傳性的變異，變化成感染性更強的病毒，所以只能想成是活體。

日本與台灣幾乎是在差不多的時間檢查出了第一個確診者。(分別是1月16日和1月21日)，台灣政府好像是在2019年的12月就開始準備對抗新冠病毒的政策，所以在春節(舊曆年)之後的2月7日，就全面禁止了

中國人入境台灣。日本則是3月19日開始才採用邊境防控措施，要求入境者要14天在自家或旅館隔離，不使用公眾交通工具，之後也才慢慢地開始在機場檢疫，才有PCR檢查、抗原檢查等等。

我因為台灣辦事處的業務和國立臺灣大學客座教授的共同研究的工作關係，在2月20日到3月18日期間駐留在台北。當時的台灣人為了買口罩，在藥局前面大排長龍的景象，我是親眼目睹的。當時在日本要買到口罩也不是太容易，我帶著太太幫我親手縫製的布口罩，也買了口罩當成來台的伴手禮。飛機上戴著口罩的都是東方人，而沒戴口罩的都是白人觀光客。那時候台灣正值春季的學期初，只要有一個確診就要停班，二個確診就要全校停課，由政府強制地喚起全民的注意，各教育機關都對學生進行防疫的宣導。國立臺灣大學則是在各棟建築物門口測量所有入館者的體溫，也一一檢查學生證，並確認是否有確實戴著口罩。那時是筑波大學春季休業，所以剛好是課很少，到校的學生也很少的時期。

筑波大學初期的新冠對策與緊急事態宣言之應對

和日本其他的教育機構一樣，筑波大學也受到了疫情的影響，2020年3月的畢業典禮和往年不同，不讓一般學生、家長出席，只讓各學群、學類、研究科推派代表(學位

筑波大学の初期のコロナ対策と緊急事態宣言への対応

日本の他の教育機関と同様コロナの影響を受け、筑波大学では、2020年3月の卒業式は通常とは異なり、各学群・学類・研究科からの代表者（学位記受領総代・副総代、謝辞総代及び学生表彰者）により挙行することになり、一般学生や家族の出席は認められなかった。無論、4月の入学式にも影響し、筑波大学では一切中止となった。新学期の授業は予定より2週間遅れ4月27日にスタートしたが、例年通り、8月7日に終了し、学生は通常の夏季休業に入った。それは、春学期中の土曜日や祝日を授業日に振替えることによって実現した。国が「緊急事態宣言」（図1）を4月7日から最初7都道府県、16日以降は全国に拡大して実施した。これにより大学構内への学生の入構は全面的禁止、授業は全てオンラインのみとなった。しかし、研究のため、研究室への学生の立ち入りは指導教員の許可があれば、可能であった。第一回目の緊急事態宣言は5月25日に解除されましたが、大学は上記のコロナ対策の継続を要請した。

留学中の筑波大生に対する帰国要請

3月25日に日本国外務省より、全世界に対しコロナ感染症危険情報レベル2が発出したため、本学では、「海外での危機発生時における学生および教職員の渡航に関する指針について」に鑑み、筑波大生に対し、留学中の者にあつては日本への帰国を要請した。そのため、台湾の大学に留学中の本学の学生に連絡した。ところが、「台

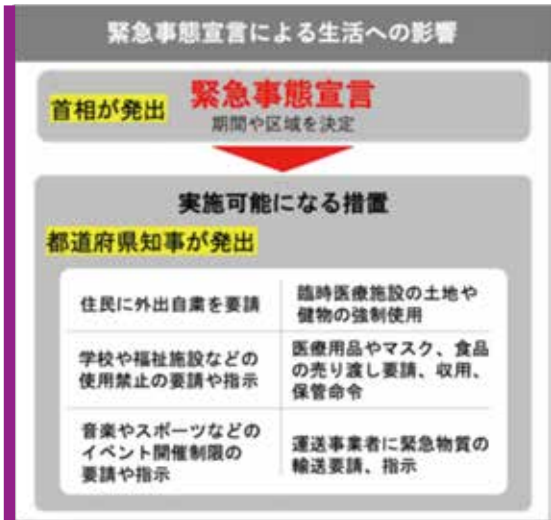


図 1. 緊急事態宣言の解説図

圖 1：緊急事態宣言の解説圖

湾は日本よりコロナ感染者が少なく、今後もしも自宅自粛の可能性が低く、日本よりは安全で授業や研究への支障が少ないと思われるため、台湾の残留を希望したい」と帰国要請を断ってきた学生がいた。そこで、この旨、大学に報告し、交渉の結果、残留希望者には残留を希望する理由書を一筆書き、ご両親と所属組織の長の了承を得て大学に要望を申請した。結局、大学で承認され、日本学生支援機構の奨学金も継続支給された。また、台湾留学していた8人中、6人は継続し、予定通り留学を遂行した。

コロナ禍の夏季休業と秋学期

私が所属する学類では講義以外に学生実験があり、オンラインでの実施は困難であると学類は判断し、春学期の学生実験のほぼ全てを夏季休業期間中に実施することとなった。そのため、3つの密（密閉・密集・密接）を避けるための対策、授業中の換気、マスク着用とゴム手袋装着、実験室の入室前の手のアルコール消毒、検温、学生は授業当日より14日前に健康観察記録表（図2）の作成などを講じて対面式授業をした（図3）。マスク着用のままで顕微

記受領総代表、副総代表、謝詞総代表及領獎者）参加。當然4月の入学典禮也受到影響，筑波大學是全部取消了，而且把新學期的開學時間往後延了二週，一直到4月27日才開學，而學期結束的日期則不改變，一樣在8月7日，所以學生進入暑假的日期是不變的。因為這樣，春學期就有些週六和假日需要補課。國家宣布了「緊急事態宣言」（見圖1）從4月7日開始，一開始是7個都道府縣，16日之後擴大實施範圍至全國。這時大學全面禁止學生到校上課，所有的課都改為線上課程。但是如果是研究的需要，學生需要進入研究室，只要有指導教授的許可，就可以進校園。第一次的緊急

健康観察記録表				
学群番号	所属	氏名		
1 毎朝、起床時と夕方検温し、下の表に記録してください。 2 その他、風邪の症状の有無（有りの場合は具体的な症状）に○をつけてください。				
日付	曜	朝の体温	夕方の体温	風邪症状
例		■平熱 □発熱症状あり	■平熱 □発熱症状あり	○有（咳・鼻水・くしゃみ・喉頭痛・倦怠感・呼吸困難感）
月 日		□平熱 □発熱症状あり	□平熱 □発熱症状あり	無・有（咳・鼻水・くしゃみ・喉頭痛・倦怠感・呼吸困難感）
月 日		□平熱 □発熱症状あり	□平熱 □発熱症状あり	無・有（咳・鼻水・くしゃみ・喉頭痛・倦怠感・呼吸困難感）
月 日		□平熱 □発熱症状あり	□平熱 □発熱症状あり	無・有（咳・鼻水・くしゃみ・喉頭痛・倦怠感・呼吸困難感）
月 日		□平熱 □発熱症状あり	□平熱 □発熱症状あり	無・有（咳・鼻水・くしゃみ・喉頭痛・倦怠感・呼吸困難感）
月 日		□平熱 □発熱症状あり	□平熱 □発熱症状あり	無・有（咳・鼻水・くしゃみ・喉頭痛・倦怠感・呼吸困難感）
月 日		□平熱 □発熱症状あり	□平熱 □発熱症状あり	無・有（咳・鼻水・くしゃみ・喉頭痛・倦怠感・呼吸困難感）
月 日		□平熱 □発熱症状あり	□平熱 □発熱症状あり	無・有（咳・鼻水・くしゃみ・喉頭痛・倦怠感・呼吸困難感）
月 日		□平熱 □発熱症状あり	□平熱 □発熱症状あり	無・有（咳・鼻水・くしゃみ・喉頭痛・倦怠感・呼吸困難感）
月 日		□平熱 □発熱症状あり	□平熱 □発熱症状あり	無・有（咳・鼻水・くしゃみ・喉頭痛・倦怠感・呼吸困難感）
月 日		□平熱 □発熱症状あり	□平熱 □発熱症状あり	無・有（咳・鼻水・くしゃみ・喉頭痛・倦怠感・呼吸困難感）
月 日		□平熱 □発熱症状あり	□平熱 □発熱症状あり	無・有（咳・鼻水・くしゃみ・喉頭痛・倦怠感・呼吸困難感）
月 日		□平熱 □発熱症状あり	□平熱 □発熱症状あり	無・有（咳・鼻水・くしゃみ・喉頭痛・倦怠感・呼吸困難感）
月 日		□平熱 □発熱症状あり	□平熱 □発熱症状あり	無・有（咳・鼻水・くしゃみ・喉頭痛・倦怠感・呼吸困難感）

図 2. 健康観察記録表

学生は朝夕体温を測定し、記録し、入構したら、教職員の指示により見せる。

圖 2：健康觀察記錄表

學生需早晚各測量一次體溫並記錄至以下表格，進校園後在教職員の指示下出示。

事態宣言是在5月25日解除，但大學則是希望繼續實施。

籲請留學中的筑波大學學生歸國

3月25日，日本的外務省發出警告，全球의 新冠肺炎的危險層級達到2級，所以本校根據「海外發生危機時學生與教職員的境外指導方針」，要求在海外的筑波大學學生都盡速回到日本。因此，我與滯留在台灣的筑波大學學生聯絡，但是在台灣的學生拒絕了我，他們說：「台灣比起日本，新冠肺炎的確診者較少，之後被要求自主隔離的可能性較低，對於上課及做研究的不良影響也較小，所以想要繼續留在台灣的大學。」我也旋即向筑波大學校方報告此事，交渉的結果是請想留在台灣的學生撰寫一份理由書，並請家長與所屬組織的師長也共同擔保，一同向大學正式申請要繼續滯留台灣。所幸筑波大學校方願意支持，日本的學生支援機構也願意繼續支付獎學金，在台灣留學的8位學生中有6位得以繼續留在台灣，完成留學台灣的計畫。

新冠肺炎疫情中的夏季休業與秋學期

我所屬的學院在一般上課之外還有學生實驗課，所以無法用線上的方式上實驗課，所以春學期的學生實驗課全部改到夏季休業期間上課。因此，我們為了正常上課，實施了三不密的防護方法，也就是不密閉、不密集、不密接。教室也要記得定時開窗換氣，師生都要戴口罩、戴橡膠手套，進入實驗室前要酒精消毒手部、測量體溫，也要求學生要交14日前健康觀察記錄表（見圖2）。但因為戴著口罩看顯微鏡

鏡を覗くと接眼レンズが曇ったり、ゴム手袋装着のまま徒手切片のような細かい作業は簡単にできなかつたりして苛立ちを覚えるが、学生が生き生きと楽しく作業している姿を見て安心した。

秋学期には授業形態として基本的に100人以上の講義授業はオンライン形式を取ることになっていた。人数が少ない授業については学群、学類、担当教員の判断で対面式の授業が可能となった。ただ、大学としてはなるべくオンライン授業を推進している。この新しい授業スタイルは今後（コロナ後）も継続するであろう。

今は、会議もオンライン。9月28日に国立台湾大学との協働学位教育課程の協定書（更新）の調印式（図4）を行った。

コロナ禍の課外活動

課外活動団体（部活や同好会）について大学は、2月にイベントや集会、合宿の延期や中止を要請、3月に新歓の全面的な自粛を要請、4月に課外活動施設など利用停止、7月に条件付きで課外活動の再開が可能に、10月に「課外活動における団体活動開始ガイドライン」が発表届出を出し許可されると団体での課外活動が可能に、12月に「茨城県知事による外出自粛要請に伴う課外活動の自粛について」要請が発表、不要不急の活動は自粛になった。

コロナ禍で我々の今までの日常生活が完全に変貌した！

- 毎日ニュースで新型コロナウイルス

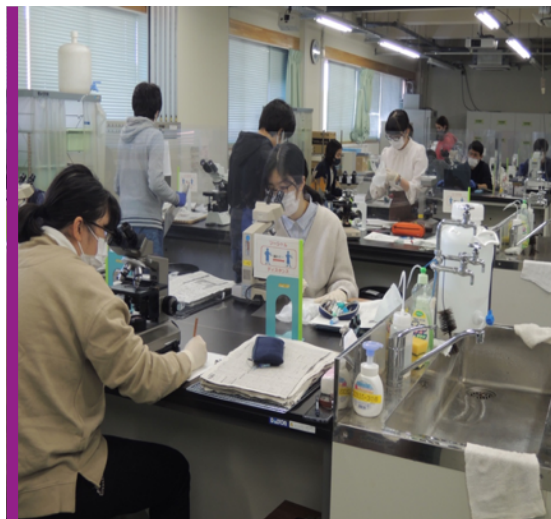


図3. コロナ対策を講じた学生実験の様子
学生実験の実験台3台あるが、1台に最大8人着席可能。そこに4人のみ着席し、実験台の真ん中に透明なアクリル製のシールドを立てている。マスク着用とゴム手袋装着。

図3：新冠病毒防疫措施中的學生實驗課
學生實驗的實驗桌台共有3台，本來1台可以容納8位學生。但防疫措施只讓1台容納4位學生，而且實驗的桌台上有透明的壓克力板隔開。學生也都有戴口罩和橡膠手套。

（以下、コロナ）の感染状況の確認

- 外出には必ずマスクを忘れずに、お店の入店には必ずアルコールで手を除菌
 - スーパーのレジ付近では床に貼られている立ち位置を示すテープや印を探し、前に並んでいる方と距離を保つ
 - 外食・会食などを全くしない
- 「なんという一年だったのでしょうか」と一年を振り返り替えながら、日本で第3波の新型コロナウイルスの陽性者数のピークを達する真最中にこの恐ろしいウイルスとの共存はまだまだ続く可能性は高く、皆様の健康を祈りながらこの記事を書いた。

的時候會讓鏡頭起霧，戴著橡膠手套也很難像徒手切片那樣精細地動作，但是當我看到學生生氣勃勃地很開心的做實驗的樣子，也覺得安心。

秋學期基本上是超過100人以上的課就必須改為線上課程的形式，但如果人數少是可以在學群、學類及負責的教師的判斷下改採實體授課。但是大學還是希望盡量採取線上的方式上課。我想這樣的上課方式在新冠肺炎疫情緩和之後也還會持續吧？

現在，連開會都是用線上的方式進行了。9月28日，我們與國立臺灣大學簽訂了「生命科學與環境研究科之碩士雙學位計畫」（續約），當天也是採用線上簽約的方式進行。

新冠肺炎疫情中的課外活動

關於課外活動團體(社團及同好會)的活動，大學在2月時請學生把各項集會、活動、合宿等都延期或取消，3月時請學生更加強自肅，4月時停止使用各課外活動的場地，7月在附有條件的狀況下，可以重新開始社團活動，10月准許申請「課外活動之團體活動開始指南」條例後合格的社團，12月本縣公告了「茨城縣知事之外出自肅要求之課外活動自肅」相關條例，所以不緊急的所有活動都請自肅。(自肅很難用一個精準的中文來概括語意，它包含了自律、斟酌、



圖4. オンラインの調印式

左写真、西岡学術院長による挨拶と画面には国立台湾大学盧農学院院长（前列）。右写真、調印式の記念撮影。左から山岡研究群長、西岡学術院長。撮影のため、全員マスクを外した。会議開始直前に両大学でそれぞれマスクをする・しないの確認作業。

圖4：線上的簽約儀式

左圖：西岡學術院長致詞。在畫面中的是國立臺灣大學生農學院的盧院長。右圖：團體紀念照也直接以視訊畫面合影。左起：山岡研究群長、西岡學術院長。為了拍照大家才把口罩暫時拿下來。在會議開始前大家還特別討論了是否要一直戴著口罩。

節制、自主管理的意思，但實際上並無強制力。）

新冠肺炎讓我們的日常生活完全改變

- 每天看新聞必先確認今天新冠肺炎的疫情狀況，查看確診人數等。
- 外出一定不能忘了戴口罩，進入店家一定要記得用酒精消毒。
- 在超市的結帳櫃台排隊時，要按照地上貼的指示前進，保持社交距離。
- 不外食也不聚餐

「該怎麼形容這是怎樣的一年呢？」我邊回想著這一年，一邊寫下了這篇文章，而同時日本新冠病毒的疫情已進入第三波，陽性確診的患者也一再刷新紀錄，達到最高峰，看來要繼續與這個可怕的病毒共存的可能性還是極高的，在此我也只能祈願大家平安健康。（譯：林佳瑤 筑波大學台灣辦事處）

筑波大学に留学して

文・余佳穎（国際日本研究学位プログラム 博士前期課程）

私は筑波大学国際日本研究学位プログラムの博士前期課程で学んでいます。このプログラムには人文科学、社会科学、日本語教育学の3つの領域があり、どれも大変豊富なカリキュラムが用意されています。例えば私が所属している社会科学の領域には、経済学、法律学、比較政治学、国際関係論等があります。また、自分自身の専攻以外の授業で分野を跨いだ知識を学ぶことができ、視野を広げると同時に自分の研究内容を豊かにもできます。

国際日本研究科の学生は世界各地から来ており、国籍も専攻も異なる中で、一つの問題について意見を出し合う時にも、様々

な角度からの考え方が飛び交います。特に、自分の研究論文の構想について発表した時の異な

る専攻の学生からのコメントは、自分自身の足りない部分に気づき、また大いに刺激を受けることができます。学際的な知識を得たい方、或いは世界各国の学生と意見交換をしたい方には、是非国際日本研究科をお勧めします。（訳：服部美貴 日本語・日本文化学類／地域研究研究科 台湾大学日本語文学系講師）



国際日本研究留学心得

文・余佳穎（国際日本研究博士前期課程）

我就讀的是筑波大學國際日本研究博士前期課程。在國際日本研究裡共有3個領域，分別是人文学、社會科学以及日本語教育學。在每個領域中所包含的課程非常豐富，像是我自己所屬的社會科学的領域裡，就有經濟學、法律學、比較政治學、國際關係論等的課程。除了可以在自己專攻的領域攻讀以外，還可以去研讀其他領域的課程，藉由跨領域的知識學習，不但可以拓寬自己的視野，同時也會豐富自己的研究內容。由於國際日本研究所屬的學生來自世界各地，

大家的國籍不同，大學所學的專攻也不同，所以大家在面對同一個問題時所表達的意見時，會有不同的角度去解釋，經常可以激盪出不一樣的火花。尤其是在發表自己的研究論文的構想時，會有不同專攻領域同學對自己的研究計畫發表評論，藉由這樣的方式除了可以看到自己的不足之處之外，同時也會刺激自己的思考方式。若想要學習跨領域的知識，或是想和世界各國的學生彼此交換意見的話，攻讀國際日本研究會是一個不錯的選擇。



固定觀念に縛られない学び方

文・貝瀬 智洋（Interdisciplinary Engineering）

私は2019年秋に筑波大学に入学しました。設立1年目だったIDE（総合理工学位プログラム）には生徒が3人しかおらず多少心細さもありましたが、今となってはそれが心地よいくらいに感じます。理工学の学士英語コースは筑波大学では初めての試みだということで、教授方が丹念に丹念を重ね指導をしていることが直々に伝わってきます。言語の関係もあると思いますが、生徒と教授方の距離がとても近く、加えて少人数制なので、大学という感覚がしません。寧ろ塾や研究室のような雰囲気です。このような授業は他を探してもなかなか見つからないと思います。そんな特別なプログラムなのですが、総合理工と名乗るだけあって、とても大きな枠組みです。マイクロからマクロ、更には他分野まで、ありと



あらゆる知識を身につけなければいけません。しかし、それもまた楽しみの一つでもあります。学びを深めていくうちに、自分が本当に興味を持っている研究に力を入れられる、そして違う学類とも連携が取れるので、今までとは違う方向に社会の為になるような研究ができるのではないかと考えています。



與眾不同的學習方式

文・貝瀬智洋（綜合理工學位課程）

自從我進入筑波大學已經過了將近一年半了。IDE（綜合理工學位課程）當時是創辦第一年所以只有三個學生，入學時令我相當緊張。但隨著時間過去我們現在已經能夠打成一片，現在有空都會聚在一起。這是筑波大學第一次開設理工科學士英語課程，所以我能感受到教授們在教學上非常的用心。學生和教授之間的距離很近，班級人數也很少，所以與其說是大學，它

更像是一個補習班或實驗室。我想在其他地方很難找到這樣的課程。畢竟這個課程叫「綜合理工學位課程」，我們需要掌握各種知識，從小到大，甚至其他領域，當然這也是我喜歡的理由之一。隨著學習更加深入，我能夠找到自己真正感興趣的學系，由於我們跟其他部門合作緊密，我相信我們將來可以用跟以往不同的方式來進行有益於社會的研究。



筑波大学台湾オフィス便り

文●阿部淳一ピーター

皆様、お変わりありませんでしょうか。会報第五号の発行、おめでとうございます。いつも皆様のお力添えをいただき、筑波大学側から国際室台湾オフィス担当陳祥氏のサポートによりスタッフ林佳瑤氏とともにこれからも台湾オフィスの活動を進めて参ります。昨年、コロナ禍のため、なかなか、渡台できず、台北の台湾オフィスの席を空けたままでしたが、今年もしばらく、このままになると思います。

昨年の筑波大学における重要な出来事として、まず、文部科学省が、筑波大学を指定国立大学法人に指定したと発表したことであります。指定国立大学法人とは、世界の有力大学と肩を並べる存在として、研究力や人材育成能力の強化、研究成果の社会還元など一層、尽力することを目指しています。現在は、本学以外に東北大学、東京大学、京都大学、東京工業大学、名古屋大学、大阪大学、一橋大学、東京医科歯科大学の8大学が指

定国立大学法人であります。指定されると規制緩和の対象となり、出資対象範囲が拡大したり、寄付金など余裕金の運用がしやすくなったりします。もう一つの出来事は永田恭介学長が学長として再選され、あと3年間務めることが決まったことであります。

昨年、国立台湾大学の国際室の移転に伴い、移転先において、台湾大学との協定大学にはオフィススペースを設けていただきました。現在、台湾オフィスは国立台湾大学において2カ所に事務所を設置いたしています。

昨年度から引き続き、筑波大学は「筑波大学基金」(<https://eng.futureship.sec.tsukuba.ac.jp/>)の寄付を校友会の皆様より集めています。台湾オフィスは今後もしもご質問・ご意見などを受け付けていますので、遠慮なく、お問い合わせください。

今後とも校友会の皆様のご指導・ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い致します。🍇

筑波大學台灣辦事處

文●阿部淳一Peter

各位，別來無恙，一切可好？恭賀大家第五期會刊順利發行。長久以來都承蒙各位校友的支持，筑波大學國際處負責台灣事務的陳祥小姐、台灣辦事處的林佳瑤小姐以及我，才能共同合作推動台灣辦事處的活動。去年因為新冠肺炎的蔓延，我無法飛抵台灣，在台北的台灣辦事處的位置只好一直空著，我想今年可能還會繼續這樣持續下去。

去年在筑波大學有幾件重要的大事，一是筑波大學被文部科學省列為指定國立大學法人。指定國立大學法人的涵義是能與世界上一流的大學並肩的優秀大學，以強化研究能力與培育人材的能力、並將研究的成果回饋給社會為竭盡心力的目標。現在，除了本校之外，還有東北大學、東京大學、京都大學、東京工業大學、名古屋大學、大阪大學、一橋大學、東京醫科齒科大學等八所大學都被列為指定國立大學法人。得到了這項殊榮，可以成為許多放寬限制的對象，也能擴大出資的對象，在捐款等經費的運用上能更加靈活。而另外一件大事就是永田恭介校長的連任，得



以再領導筑波大學三年。

去年，台灣辦事處受邀與國立臺灣大學的國際處一同搬遷到新大樓，駐於國立臺灣大學姊妹校的共同辦公室內，所以台灣辦事處目前設有二處辦公室。

「筑波大學基金」(<https://eng.futureship.sec.tsukuba.ac.jp/>)從去年開始在校友會進行募款活動，今年將繼續執行，若有相關的問題及意見，請不要客氣向我們詢問。

再次感謝校友會各位的厚愛，靜候諸位校友的指導與鞭策。🍇

台湾オフィスの活動は、以下のウェブサイトで紹介しています。

📧 ホームページ：<http://www.global.tsukuba.ac.jp/overseas/taiwan>

📘 facebook：<https://www.facebook.com/ut.taiwan.office/>

台灣辦事處的各项活動，請見以下網站：

📧 官網：<http://www.global.tsukuba.ac.jp/overseas/taiwan>

📘 臉書：<https://www.facebook.com/ut.taiwan.office/>

筑波大学台湾校友会規約

- 【名称】
第1条 本会は「筑波大学台湾校友会」と称する（英語名はUniversity of Tsukuba Taiwan Alumni Associationとし、UTTAAと通称する）。
- 【趣旨】
第2条 本会は、会員相互の親睦をはかり、日台両国の相互交流と友好発展に寄与することを趣旨とする。
- 【活動】
第3条 本会は、第2条の目的を達成するため、名簿作成、校友及び筑波大学との交流協力、親睦会、その他、会員が提案する活動などを行う。
- 【会員】
第4条 本会は、下記の該当者で構成する。
（1）筑波大学または前身となる大学の学群・大学院の卒業・修了者
（2）筑波大学に学位請求論文を提出し学位を認定された者
（3）一ヶ月以上筑波大学に在籍し学習・研究等を行った者
（4）一ヶ月以上筑波大学に滞在し教育・研究等に従事した者
（5）本会の入会希望者は、幹事会の定めるところにより入会の申し込みを必要とする。
- 【賛助会員】
第5条 本会の発展に多大な貢献のあった者及び本会の趣旨に賛同する者で、会長・副会長等が認める者は賛助会員となることができる。
- 【退会】
第6条 会員は個人の事情でいつでも退会できる。
- 【総会】
第7条
（1）総会はすべての会員をもって構成する。
（2）総会は次の事項について決議する。
—会員の除名
—会長、副会長の選任または解任
—会則の変更
—会計監査の承認
（3）総会は定時総会として年1回開催するほか、必要がある場合に開催する。
（4）総会は幹事会の決議に基づき会長が招集する。
（5）総会の議長は会長がこれに当たる。
（6）総会における議決権は、会員1名につき1票とする。
（7）総会の決議は総会出席者の議決権の過半数をもって行う。
（8）会員は代理人によってその議決権を行使することができる。
（9）総会への発議は幹事会を通しておこなう。
（10）総会の議事については、議事録を作成し、議長が署名押印する。
- 【役員】
第8条
（1）本会は役員として会長1名、副会長若干名、幹事長を置く。
（2）本会は名誉会長、名誉副会長及び顧問を置くことができる。
（3）会長、副会長は総会の決議によって選出する。
（4）顧問は幹事会によって選任する。
（5）名誉会長、名誉副会長は幹事会によって推薦され、総会の承認を持って選任する。
（6）会長は幹事会を組織し、本会の活動を管轄する。
（7）副会長は会長の職務を補佐し、会長が職務遂行し

- ねるときにその職務を代行する。
（8）会長、副会長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 【幹事会及び事務局】
第9条
（1）本会の運営のため幹事会を置く。
（2）幹事会の事務局を筑波大学台湾オフィスに置く。
（3）幹事会は、会長、副会長、事務局長、副事務局長若干名および事務局員、筑波大学台湾オフィス構成員より構成される。
（4）事務局長は、会長によって選任する。
（5）事務局長は、副事務局長、事務局員を選任する。
（6）幹事会は、次の活動を行う。
—本会の活動執行の決定
—本会の会計監査
—事業報告書の作成
—総会の開催
—会員名簿の管理
—筑波大学との連絡調整
—会員からの意見をとりまとめ、会則、附則変更などを総会へ発議する

- 【会費】
第10条 本会の会費は附則に定める。また、総会開催など実際の活動内容に合わせ、適宜徴収もしくは厚志を募るものとする。

- 【会計】
第11条
（1）本会の会計年度は、毎年1月1日に始まり12月31日に終わる。
（2）本会の会計は事務局にて管理し、幹事会はこれを監査し、総会の承認を得る。
（3）本会に納められた会費および寄付は税金控除の対象とはならない。

- 【除名】
第12条 会員が本会の目的に逸脱する行為又は本会の名誉を傷つける行為を行ったときは、幹事会の議決を経て、その資格を失う。幹事会は総会に報告する。

- 【会則の発効】
第13条 本規約は2016年2月20日に校友会設立式で可決され、2016年2月20日より発効する。

- 【規約改正】
第14条
（1）この会則は総会の議決によって変更することができる。
（2）本規約の解釈権は幹事会に属する。

- 【附則の取扱い】
第15条
（1）本会則は会則に矛盾しない限りにおいて本会の運営のために附則を置くことができる。
（2）附則は総会の議決によって変更することができる。

- 附則
1 本会の最初の会長は林華章とする。
2 本会の最初の副会長は潘進丁と邱若山とする。

- 附則
【会費】
第1条
（1）本会の入会金を1000台湾ドルとし、入会時に一度支払うものとし、終身会員となる。

筑波大學台灣校友會章程

- 【名稱】
第一條 本會名稱為”筑波大學台灣校友會”（英文名稱為University of Tsukuba Taiwan Alumni Association，英文縮寫為UTTAA）。

- 【宗旨】
第二條 本會之宗旨在於服務會員，增進會員之間的友誼，期能對台日兩國之間的國際交流有所貢獻。

- 【活動】
第三條 本會為達成第二條之目的，將致力於會員名冊的製作、校友間的以及與筑波大學之間的交流，舉辦聯誼會及會員提議之活動。

- 【會員】
第四條 本會會員由以下成員組成：
（1）在筑波大學或東京文理科學大學、東京教育大學、圖書館情報大學之大學部或研究所畢業者
（2）向筑波大學提交論文獲得學位者
（3）在筑波大學從事學習或研究一個月以上者
（4）在筑波大學從事教育或研究一個月以上者
（5）完成秘書處所訂之入會申請程序者。

- 【贊助會員】
第五條 對本會的發展做出重大貢獻及贊同本會宗旨者，經本會會長、副會長等合議後，可成為本會贊助會員。

- 【退會】
第六條 會員可自主隨時退會。

- 【總會】
第七條
（1）總會由所有的會員所組成
（2）總會將決議以下事項：
—會員之除名
—會長、副會長的選任或解任
—會則之變更
—會計監査之承認
（3）總會定期一年召開一次，必要時可加開臨時會。
（4）總會以幹事會的決議為基礎，由會長召集。
（5）總會的議長由會長擔任。
（6）總會の決議權，每位會員各一票。
（7）總會之決議須出席會員之半數以上同意始為有效。
（8）會員の決議權行使可委託代理人。
（9）總會の新議題將透過幹事會提案。
（10）總會の議事將做成會議記錄，由議長簽名蓋章。

- 【幹部】
第八條
（1）本會の幹部將設置會長1名、副會長若干名、並設置秘書長。
（2）本會可設置名譽會長、名譽副會長以及顧問。
（3）會長、副會長由總會之決議選出。
（4）顧問由幹事會推薦聘任。
（5）名譽會長、名譽副會長由幹事會推薦，總會認可後任之。
（6）會長組織幹事會，並管理本會之所有活動。
（7）副會長協助會長執行會務，於會長無法出席時，代行其職務。
（8）會長、副會長的任期二年，可連選連任。

- 【幹事會及秘書處】
第九條
（1）為維持本會的營運設置幹事會。
（2）幹事會之秘書處設置在筑波大學台灣辦事處。
（3）幹事會由會長、副會長、秘書長、副秘書長若干名、幹部及筑波大學台灣辦事處之成員所組成。
（4）秘書長由會長選任。
（5）副秘書長、幹部由秘書長選任。
（6）幹事會將執行以下之活動
—本會活動執行之決定
—本會之會計審査
—事業報告書之作成
—總會之召開
—會員名冊の管理
—與筑波大學之聯絡調整
—統整會員之意見，向總會提出章程及附則變更之提案

- 【會費】
第十條 本會之會費依附則所定。另外，配合召開總會等實際活動内容之需求，得收取費用或募捐。

- 【會計】
第十一條
（1）本會の會計年度，由每年の一月一日開始至十二月三十一日為止。
（2）本會の會計將由秘書處管理、由幹事會監督、經總會認可後向所有會員公開。
（3）本會繳納之會費與捐款均無法提報列舉扣除税額之用。

- 【開除】
第十二條 違背本會宗旨或損害本會聲譽之會員，經幹事會表決通過，提交總會議決，取消其會員資格。

- 【章程の生效】
第十三條 本章程於2016年2月20日校友會成立大會通過，自2016年2月20日起開始生效。

- 【章程修改】
第十四條
（1）本章程可依總會之決議而修改之。
（2）本章程之解釋權屬於幹事會。

- 【附則之運作】
第十五條
（1）在不與本會則相矛盾的情況下，可依本會の營運需求，設置附則。
（2）附則在總會決議後可變更。

- 附註
（1）本會最初之會長，由林華章先生擔任。
（2）本會最初之副會長，由潘進丁及邱若山先生擔任。

- 附則
【會費】
第一條
（1）本會入會費為新台幣1000元，入會時一次支付，即可成為終身會員。

編集後記

会報5号では、東京オリンピックでの筑波大学関係者の皆様のご活躍をご報告する予定でした。しかし、2020年は新型コロナウイルスの影響で、予想もしていなかった年になりました。

国外の往来が制限されている中、筑波大学の皆様との対面での交流は叶いませんでしたが、2020年は入学・留学説明会や若手カフェ等はオンラインで実施されました。若手カフェには台湾の野球界で活躍中の余書農さんが、ご自身の経験をシェアしてくださいました。

また、台日関係促進に多大な貢献をされてきた本会の名誉会長の許水徳さん、台湾のトップ経営者として業界を牽引してこられた潘進丁さんと張建中さんには貴重なお

時間をいただいたおかげで、先輩方のご活躍を紙面でご紹介できることを光栄に存じます。

前号の続編となる、筑波大学初期の卒業生の高木宏治さんの恩師からの「宿題」を精力的にこなす姿には刺激を受けました。

台湾オフィス所長の阿部先生にご報告いただいたコロナ禍の中での筑波大学の様子は、異例の事態にある皆様の努力を知ることができました。

改めて、一日も早く生き生きとした筑波大学のキャンパスの風景とそして母校との以前のような活発な交流が戻ってくることを願ってやみません。

再会を楽しみにしつつ、どうぞご健康且つご安全にお過ごしください。



編輯後記

原本的計畫是要在第五期的會刊上，向大家報告筑波大學的校友們在東京奧運的活躍表現，可惜在新冠肺炎疫情的影響下，2020年成為一個超出預想的一年。

在出入境的制限中，筑波大學的校友們雖然無法擁有面對面的交流，但是在2020年，我們的入學・留學說明會以及台灣年輕人座談會都透過視訊線上的方式，得以照常舉行。並且，在台灣的棒球界非常活躍的余書農校友，也透過了這樣的方式與大家分享了他自身的經驗。

另外，讓我們深感光榮的是，在促進台日關係有極大貢獻的本會名譽會長許水徳先生，以及引領台灣物流業界的頂尖企業經理人潘進丁校友與張建中校友，均在

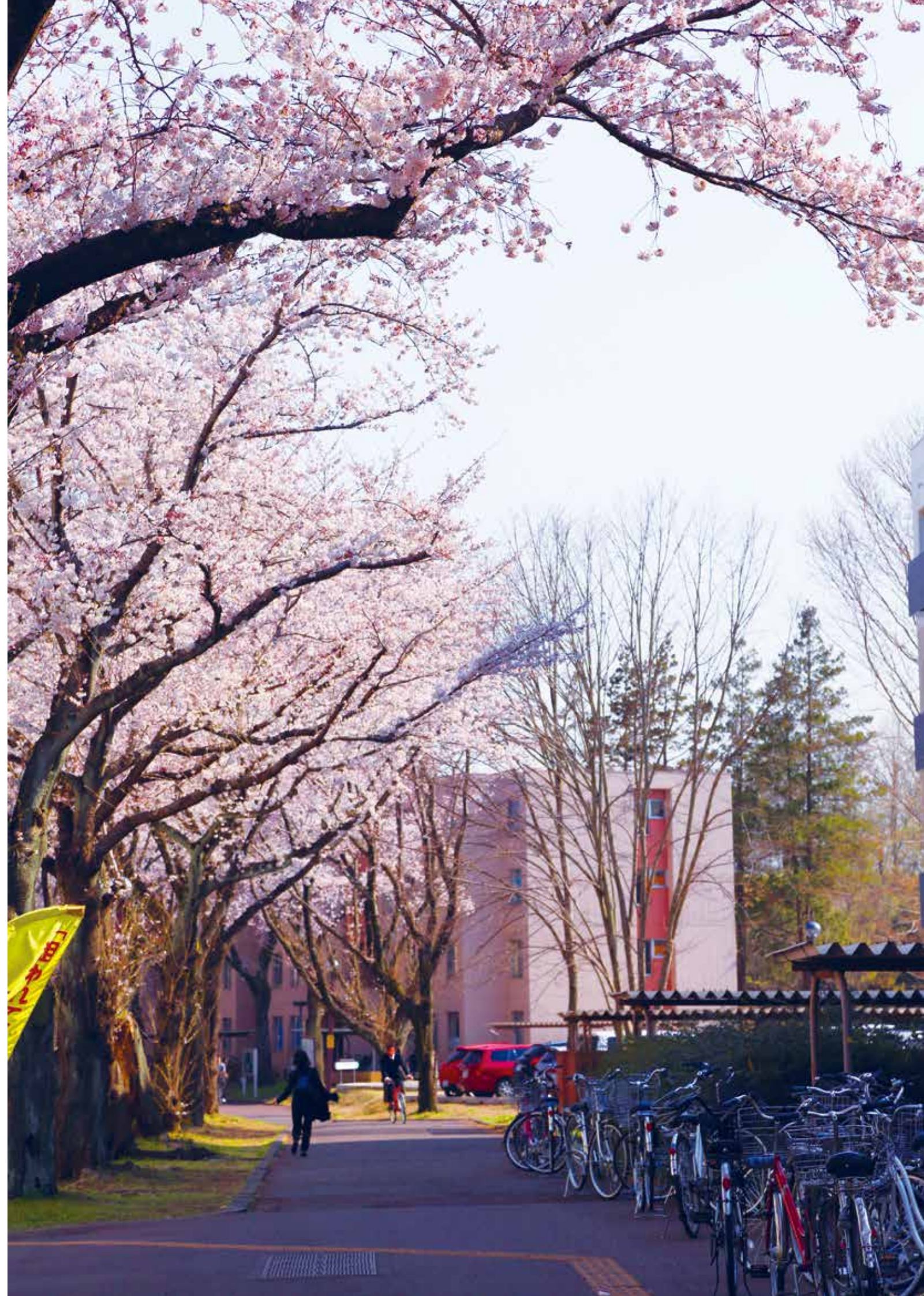
百忙之中撥冗接受我們的採訪，成就了本期會刊中校友寄語的特輯。

接續上一本會刊，讓我們都得到啟發的是，筑波大學初期的畢業生高木宏治校友的文稿，講述他在來自恩師的大課題上苦心孤詣用功的成果。

而台灣辦事處的處長阿部老師，此次也特別向大家報告了筑波大學在新冠肺炎疫情中的現狀，雖然和以往相比有著很大的差異，讓我們了解筑波大學教職員生們在抗疫上同心協力，努力不懈。

再度的祈願母校能早日回到往日生機蓬勃的校園景象，我們誠摯期望早日恢復以往，再與母校進行熱烈的交流。

期待與各位的再會，請保重身體安全地度過每一天。



筑波大學台灣校友會會刊 第五期

編輯 邱若山、孫寅華、西本 秀、服部 美貴、林佳瑤

封面設計 曹融

發行人 林華章

出版人 筑波大學台灣校友會
台北市大安區長興街81號2樓

02-3366-9313

出版日期 2021年1月23日

版權所有・翻印必究 Printed in Taiwan

廣告贊助校友：

揚雅(統豪)國際股份有限公司 黃裕益 (農林工學研究科博士1992年畢)

和友檢驗科技有限公司 莊坤遠 (農林工學研究科博士2002年畢)

國立屏東科技大學 李柏旻 (農林工學研究科博士2004年畢)

全台物流股份有限公司 張建中 (經營政策科學研究所碩士1988年畢)

全家便利商店股份有限公司 潘進丁 (經營政策科學研究所碩士1985年畢)

筑波大學台灣校友會會費、寄付金のお振込みは、以下の口座をお願いします。

帳號：玉山銀行 大墩分行 0288979138615

戶名：莊坤遠



筑波大学

University of Tsukuba



Japan Expert Program

日本マインドをもった留学生を育てるための
学士課程プログラム

入学者募集!

日本で働きたい、日本と関わる仕事がしたいと思っ
ている留学生のために、集中的な日本語と専門分野の
教育を行うJapan-Expert (学士) プログラム (4年間)
を設けました。将来、日本とあなたの国を結ぶスペシャリ
ストを育てるためのプログラムです。

日本が好き 日本で学びたい 日本で働きたい

スペシャリストを応援する4つのコース

入学後、半年間集中的に日本語を学びます

日本語能力試験N3、N2で受験できます

アグロノミスト養成コース

取得学位：学士 (農学)



- 農業・林業に関する専門的な知識を身に付ける。
- <就職先・進学先>
農業・林業の分野での研究者・技術者、
日本国内、国外での就農・指導者、
グローバル企業や農業関連企業
大学院への進学など

ヘルスケアコース

取得学位：学士 (ヘルスケア)



- ヘルスケア分野の専門的な知識を身に付ける。
- <就職先・進学先>
ヘルスケア分野の政策担当者・管理者、
研究者・教師、
健康管理関連企業の開発技術者
大学院への進学など

日本芸術コース

取得学位：学士 (芸術学)



- 日本の伝統芸術を広める教師やアーティスト、デザイナー、芸術に関するスペシャリストを育てる。
- <就職先・進学先>
教師、アーティスト、デザイナー、企業、行政、自治体、
大学教員、学芸員、研究員
大学院への進学など

日本語教師養成コース

取得学位：学士 (日本語教育)



- 日本語の実践的な能力を高める。それを支える日本語・日本文化への理解を深める。
- 外国人のための日本語教師養成
- <就職先・進学先>
日本語教師養成の指導者、教師、企業、
日本国外の日本語学校
大学院への進学など

入試スケジュール

★ウェブサイトより申し込み

出願期間 / 2021年3月1日 ~ 4月2日

入学試験 / 2021年5月10日 ~ 5月14日

入学日 / 2021年10月1日

筑波大学Japan-Expertプログラム事務局

メールアドレス: jp-expert@un.tsukuba.ac.jp

ウェブサイト: <https://jp-ex.tsukuba.ac.jp>

★詳しくはウェブサイトをご覧ください。

資源整合。解決問題。創造價值。 Resource Integration. Solve the problem. Create value.



AI 環控大數據

Artificial Intelligence, Big Data and Environment



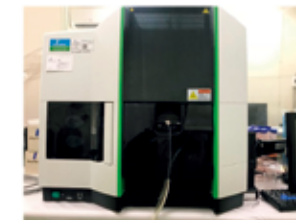
和友檢驗科技有限公司 中台科技大學環安衛分析實驗室



勞動部認可 符合 ISO 17025 國際規範



感應耦合電漿發射光譜儀 - 質譜儀



原子吸收光譜儀



微波消化器



液相層析串聯式質譜儀



六位數精密天平

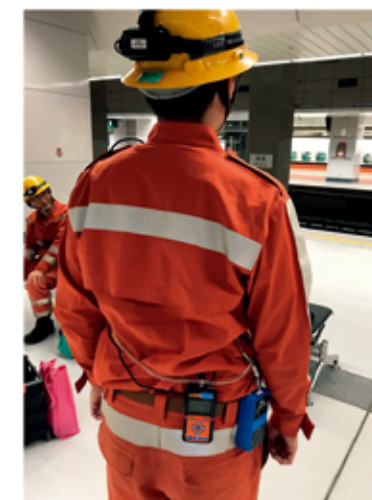


服務項目：

- ✓ 作業環境監測(勞動部職業安全衛生署認可)
- ✓ 職業安全衛生教育訓練(台中市政府認可)
- ✓ 職業安全衛生管理與相關技術諮詢服務
- ✓ 作業環境改善控制工程評估與規劃設計
- ✓ 化學品、重金屬、粉塵濃度分析與測試
- ✓ 檢知管直讀測定、閃火點測試
- ✓ 客製化超微量分析測試

和友檢驗科技有限公司成立於西元2017年，為台中市中台科技大學育成中心輔導之專業服務機構，以社會服務與培育專業人才為宗旨，結合職業安全衛生研究，提供專業之職業衛生管理諮詢與檢測分析服務，成立以來已獲國內製造業、食品業、運輸業等各領域事業單位委託提供服務。

和友將以職業安全衛生學術研究為後盾，提供客製化分析、環境測定與數據判讀，保障作業勞工健康。



「作業環境測定」とは「作業環境の実態を把握するため空気環境その他の作業環境について行うデザイン、サンプリングおよび分析（解析を含む）」をいい、労働者の健康確保のため、台湾と日本両国の法律で定期的な実施が義務付けられています。和友は台湾政府労働省の認可を得て、日系企業の皆様にも専門的なサービスを提供いたします。



揚雅(統豪)國際股份有限公司
YOUN YA (TURNHOW) INTERNATIONAL CO., LTD

總公司：台中市神岡區和睦路一段590巷39號
E-mail：service.youngya@msa.hinet.net
TEL：886-4-25613559 Fax：886-4-25619807

和友檢驗科技有限公司。40601台中市北屯區廬子路666號。04-22391686。101878@ctust.edu.tw

台灣で最も美しく、 緑あふれるキャンパス

國際化

Internationalization

全人化

Spiritualization

專業化

Professionalization



國立屏東科技大學

National Pingtung University of
Science and Technology

🏠 <http://www.npust.edu.tw>

☎ +886-8-7740561

📠 +886-8-7740208

✉ oia@mail.npust.edu.tw

📍 1, Shuefu Road, Neipu, Pingtung 91201, TAIWAN
National Pingtung University of Science and Technology

SINCE
1924

NPUST
TAIWAN



全台物流

股份有限公司

法治為本

企業永續經營之保障

創新為先

持續競爭優勢的原動力

誠信至上

誠信是客戶滿意之基礎

服務第一

開拓新客戶之利器

林口物流中心



大溪物流中心



八德物流中心



台中物流中心



全台物流為全家便利商店之關係企業

產業別 倉儲物流業

成立於 西元1989年

全台物流為國內頂尖之物流倉儲服務業者，
一向本著『物盡其用、貨暢其流』的理念，
透過科學化的管理與綿密的倉儲配送網絡，
提供客戶低成本與高品質之供應鏈管理服務。

全台物流以【全方位的綜合型物流中心】自許，
在作業技術上建構『常溫、恆溫、冷藏、冷凍、冰溫』
五大溫層完善之物流技術。

隨著近年來外食產業興起，公司亦提供完整之商流服務，
包含商品採購、庫存調撥及提供完整之配送服務。
同時也獲得HACCP及ISO22000：2005食品安全管理系統雙認證。

歡迎對**物流及外食產業**有興趣者加入我們的行列！

自2003年起，年年名列天下雜誌之百大服務業

雲林物流中心



高雄物流中心



花蓮物流中心



ISO政策



商品安全・客戶安心

理貨溫控零異常
配送溫控零異常

Let's Café
| 喝一口 美好 |

FamilyMart

濃醇

成就
完美黃金比例
就
口
感
濃
郁

